

KYUSHU UNIVERSITY

FINANCIAL

REPORT

2019

財務レポート 2019



## 総長メッセージ

# 躍進百大

九州大学は、昨年4月から新たにスタートした共創学部を加えた12の学部と、16の大学院研究組織の研究院、18の大学院教育組織の学府、4つの専門職大学院、そして高等研究院、基幹教育院、5つの研究所があります。

さらに最先端の医療を提供する国内最大級1,415床のベッドを持つ大学病院、約420万冊の蔵書を誇る図書館などを擁する我が国屈指の基幹総合大学として、優れた教育と研究を礎に、広く世界で活躍する人材を輩出してまいりました。

本学のキャンパスは5つ(伊都キャンパス、病院キャンパス、筑紫キャンパス、大橋キャンパス、別府キャンパス)あり、附属農場、4つの演習林などを合わせると合計約7,600haの面積となり、日本で3番目に広い敷地を持つ大学です。

中でも伊都キャンパスは、「時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」、「世界最高水準の研究・教育拠点の創造」をコンセプトに2005年から移転を開始し、13年かけて昨年9月に統合移転が完成しました。学生・教職員約19,000人が集結した国内最大級

(272ha)の未来型実証実験キャンパスです。九州大学は教育、研究、診療、産学官民連携など多様な活動を今後さらに推進してまいります。

また、これらの活動は、学生、教職員、同窓生、企業、地域にお住まいの方々など、数多くの方々の支えにより成り立っており、これらの方々の期待に応えていく使命があります。この財務レポートは、「九州大学を支えていただいている皆様に、九州大学の活動、取組、挑戦を紹介させていただき、より身近に九州大学を感じていただきたい」という想いを込め、わかりやすくお伝えすることを心がけました。

皆様におかれましては、本学の財務状況等を知っていただき、今後益々のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第23代九州大学総長

## 久保千春



九州大学は2011年の創立百周年を機に「九大百年 躍進百大」をスローガンとして、すべての分野において世界のトップ百大学に躍進することを目標に、「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となる」ことを基本理念として掲げて、研究、教育、社会貢献に取り組んでいます。

## 九州大学 財務レポート 2019

### 目次

総長メッセージ	01
アクションプラン 2015-2020	03
九州大学基礎データ	05
九州大学の歴史	07

パートナーとしての九州大学	09
国民のみなさまへ	09
学生・受験生・保護者のみなさまへ	13
病院ご利用・医療関係者のみなさまへ	17
企業・研究者のみなさまへ	21
同窓生のみなさまへ	25
地域のみなさまへ	26

九州大学の活動を支える財務状況	27
貸借対照表	29
損益計算書	31
キャッシュ・フロー計算書	33
財務構造(決算報告書)	34
財務指標	35
外部資金受入	37

九州大学基金の取組	39
キャンパス紹介	41
理事メッセージ	42

# アクションプラン2015-2020

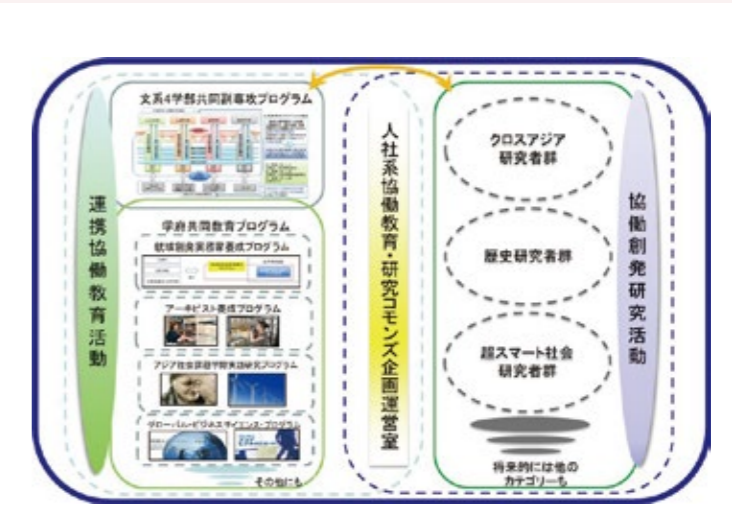
「躍進百大」の実現を目指して取り組んでいます。

九州大学は、すべての分野において世界のトップ百大学に躍進する「躍進百大」というスローガンを掲げ、「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となる」を基本理念とし、この実現のため、第3期中期目標期間における具体的な目標及び取組として九州大学アクションプランを策定しました。

- 1 世界最高水準の研究とイノベーション創出**  
世界の最高水準の卓越した学術研究の推進／新研究領域創出・育成に向けた基盤的研究の支援強化と人材育成／競争的経費の戦略的獲得
- 2 グローバル人材の育成**  
「新学部」の設置と教育の国際化改革／教育の質の保証／高大接続改革
- 3 先端医療による地域と国際社会への貢献**  
高度先進医療の開発と提供／高度な専門性を持つ全人的医療のできる医療人の育成／基礎研究の臨床への展開と学術研究の推進
- 4 学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり**  
グローバル・ハブ・キャンパスの実現／病院地区・大橋・筑紫キャンパスの整備／安全・安心・快適な教育・研究・診療環境づくり
- 5 組織改革**  
世界的研究・教育拠点として全学一体となった自律的改革／資源配分・再配分を柔軟かつ最適化する「九州大学機能強化システム」の構築／徹底した法令遵守と危機管理体制の構築
- 6 社会と共に発展する大学**  
産学官民連携・地域創生／“九大情報”のわかりやすく魅力的な発信／社会と共に発展する“九大ネットワーク”づくり

## 重点取組 人社系協働研究・教育コモンズの設置

九州大学の文系4学部(文学部・教育学部・法学部・経済学部)が、それぞれの学問分野で蓄積した知的資産を相互に開放し、体系的に提供する文系4学部副専攻プログラムを平成30年4月からスタートさせました。学生は、自学部で学ぶ深い専門性に加え、学部の枠を超えて人文・社会科学分野の知的広がりを獲得することができます。また、学部段階のみならず、大学院段階においても展開できるよう学府共同教育プログラムの構築に向けた検討を進めています。さらに、教育活動におけるこれらの取組みを研究面も含めて、より充実したものとしていくために、平成30年10月に、教育活動において連携体制の強化を図っている4部局(人文科学研究院、人間環境学研究院、法学研究院、経済学研究院)が、研究活動における連携を深めて実践するなどの取組を十全に企画運営していくための協働研究教育プラットフォームとして機能する組織、「人社系協働研究・教育コモンズ」を設置しました。これにより、学部や学府の枠を超えた協働教育活動と、異分野融合による新たな研究分野や研究課題の創発をめざす協働研究活動を力強く推進していきます。



人社系協働研究教育コモンズの概要

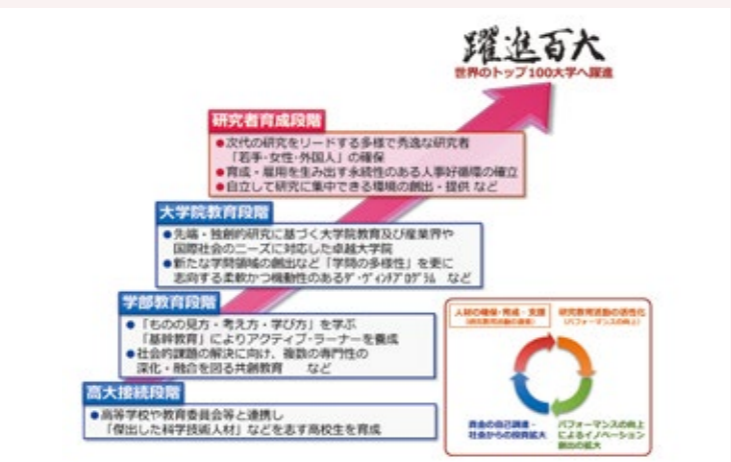
## 重点取組 アジア・オセアニア研究教育機構の設置

九州大学が蓄積してきた人的・知的財産を生かし、アジア・オセアニア地域で生じている社会的課題や将来予想される社会的問題の抑制に貢献できるよう、専門分野を超えた複数の分野融合型研究グループが現地の政府機関・大学等と協働して、組織的に取り組む「アジア・オセアニア研究教育機構」を平成31年4月に設置しました。これにより、特定の組織や専門分野の枠を超えて地球規模の課題等に取り組む研究教育活動を展開し、国際競争力の高い研究の推進をはじめ、国際的に活躍できる人材を育成するなど、世界中から学生や研究者が集うアジアの総合拠点大学としてさらに飛躍していきます。



## 重点取組 九州大学ルネッサンスプロジェクトによる人材育成機能の再構築

九州大学は創立百周年を機に「躍進百大」を掲げ、新たな百年に向けた基本理念を定め、それに基づくアクションプランを軸として、全国の大学に先駆けて数々の改革を自ら発案・実施し、常に自己改革を図ってきました。世界トップレベルの新キャンパスが完成したこの機をとらえて、これからの百年の発展を築くために、「大学改革活性化制度※」等の実績を生かしつつ、高大接続段階から研究者育成段階に至る人材育成機能を再構築することで、優れた人材を獲得・育成する「九州大学ルネッサンスプロジェクト」を実施しています。特に、大胆な経営改革により、秀逸な若手・女性・外国人研究者の獲得・育成の人事好循環を生み出し、「常に未来の課題に挑戦する大学」として進化し続けます。



※大学改革活性化制度とは  
 持続性のある人事好循環を生み出し、大学や部局の活性化を図ることを目的に、大学や部局の将来構想の実現に向け、多様で秀逸な研究者(若手・女性・外国人)の確保により、教育研究活動の更なる強化・向上を図る計画に対し、厳正な審査を行い、新たな教員の雇用に必要な人事ポイントを一定期間措置する制度。

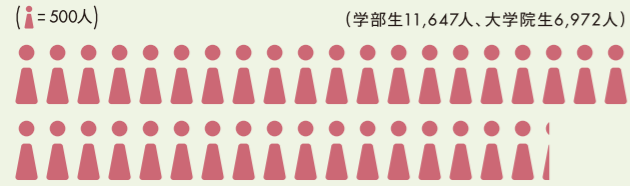
# 九州大学基礎データ

数字から見える九州大学のすがた。

## 創立107年

令和元年5月1日現在

学生数 **18,619**人



教職員数 **7,985**人



教員あたり学生数 **9**人の学生に**1**人の教員



病床数 **1,415**床



蔵書数 **427**万冊



土地面積合計 **75,777,723**m<sup>2</sup>



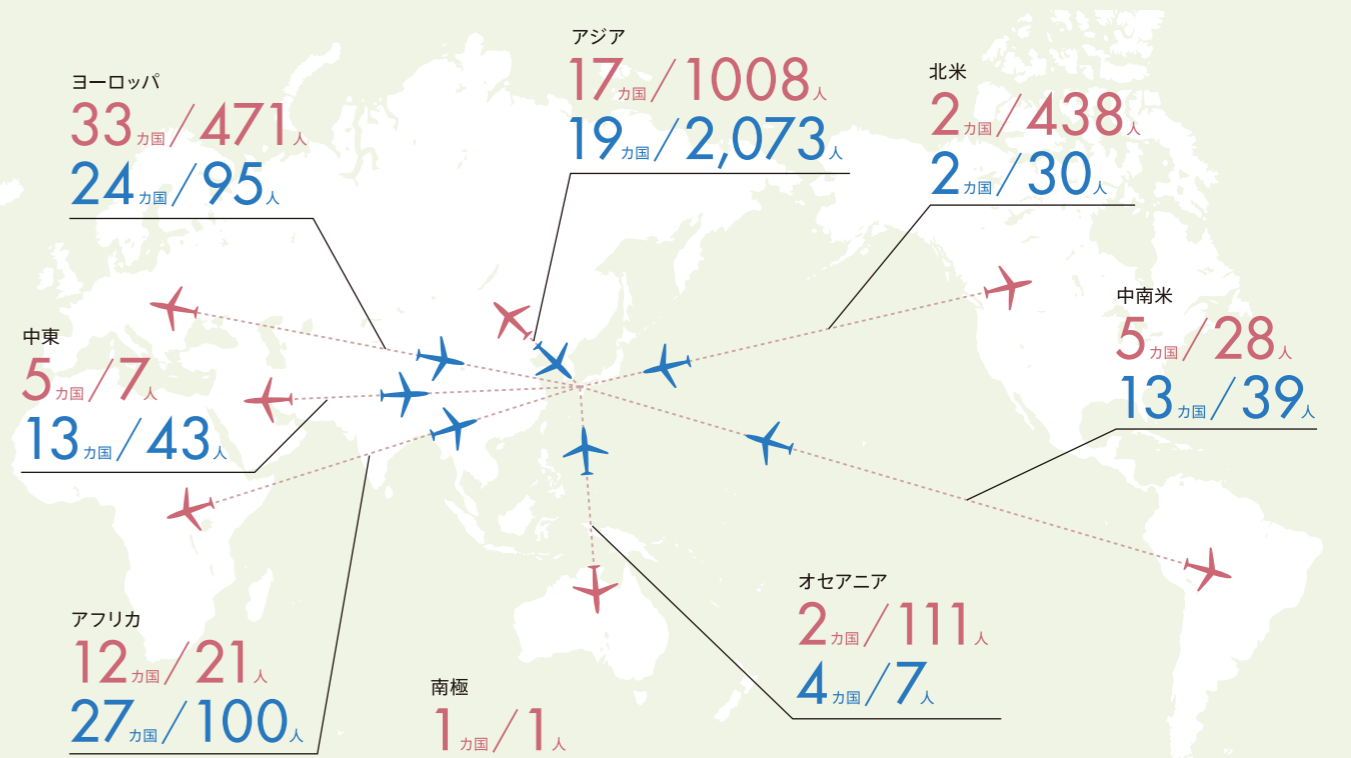
学部数 **12** 学部

共創学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、芸術工学部、農学部

大学院(学府)数 **18** 学府

人文科学府、地球社会統合科学府、人間環境学府、法學府、法務学府、経済学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、医学系学府、歯学府、薬学府、工学府、芸術工学府、システム情報科学府、総合理工学府、生物資源環境科学府、統合新領域学府

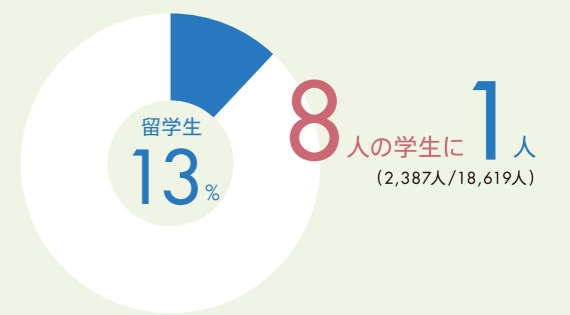
国際交流数(留学関係) **102**の国・地域から九州大学へ



海外オフィス・ブランチオフィス・プロジェクト拠点 **13**カ所



留学生数 **2,387**人



国際交流協定 **632**件

ケンブリッジ大学、マサチューセッツ工科大学、プリンストン大学 など

# 九州大学の歴史

- 1879 (明治 12 年) 県立福岡医学校開設
- 1888 (明治 21 年) 県立福岡病院開設
- 1903 (明治 36 年) 京都帝国大学福岡医科大学創立
- 1911 (明治 44 年) 九州帝国大学創立  
(工科大学・医科大学から成る)
- 1919 (大正 8 年) 医学部、工学部に改称  
農学部設置
- 1924 (大正 13 年) 法文学部設置
- 1939 (昭和 14 年) 理学部設置
- 1947 (昭和 22 年) 九州大学に改称
- 1949 (昭和 24 年) 法学部、経済学部、文学部設置  
新制九州大学となる教育学部設置
- 1961 (昭和 36 年) 創立五十周年
- 1964 (昭和 39 年) 薬学部設置
- 1967 (昭和 42 年) 歯学部設置
- 1968 (昭和 43 年) 九州芸術工科大学創立
- 2003 (平成 15 年) 九州芸術工科大学と統合
- 2004 (平成 16 年) 国立大学法人化
- 2005 (平成 17 年) 伊都キャンパス開校
- 2011 (平成 23 年) 創立百周年
- 2012 (平成 24 年) 創立百周年記念式典挙行
- 2018 (平成 30 年) 共創学部設置
- 2018 (平成 30 年) 伊都キャンパス完成

2018年(平成30年)

## 伊都キャンパス完成

2005年から整備を進めておりました伊都キャンパス移転事業が、皆様方の多大なご協力のもと、2018年9月に完了しました。九州大学はこの伊都キャンパスにおいて、新たな歴史を刻み、これからも様々な課題に挑戦し、地域社会、世界に向けて発信してまいります。

「伊都キャンパス宣言」(抜粋)

1. 世界をリードする人材と新しい科学を生み出すキャンパス
2. 未来社会を切り拓く研究成果の実証実験の場としてのキャンパス
3. 歴史や自然など豊かな環境と共生するキャンパス



九州大学について

国民のみなさまへ

学生・受験生・保護者のみなさまへ

病院ご利用・医療関係者のみなさまへ

企業・研究者のみなさまへ

同窓生のみなさまへ

地域のみなさまへ

九州大学を支える財務状況等

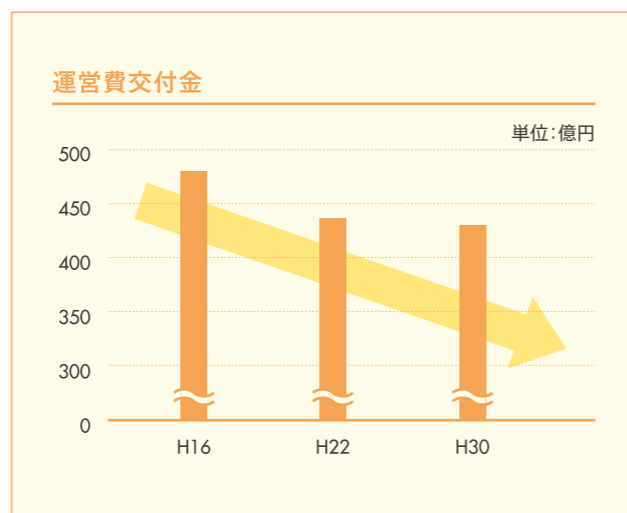
# 国民のみなさまへ



健全な運営を図りつつ、  
知の世界的拠点として発展し続けます。

## 運営費交付金だけに頼らない 財政基盤

運営費交付金は、大学の業務運営の基盤となる財源として、毎事業年度、国から交付されるものです。法人化初年度の平成16年度は485億円の交付を受けましたが、国の厳しい財政状況により年々減少傾向にあり、平成30年度は、427億円の交付となりました。大学が持続的に発展していくためには、運営費交付金だけに頼らない財政基盤の確立は不可欠との考えのもと、大学施設の有効活用などにより自己収入の増加を図るとともに、魅力的な研究課題を提案することで受託研究や補助金など外部資金の獲得(P37参照)に努めています。



## 社会との新たな連携の「カタチ」

社会との新たな連携のカタチとして、クラウドファンディングとネーミングライツを導入しました。自らの夢やアイデアをネット等を通じて発信し、共感を得た方々から資金協力を得てその取組を実現する仕組みであるクラウドファンディングは、財政確保に限らず、大学の教育研究活動の広報・情報発信や国民の理解増進等の側面を担う事業であり、令和元年8月末時点で8プロジェクトを実施し、約2,190万円を獲得しました。

ネーミングライツでは、第1弾として中央図書館のパートナー募集をし、情報学習室において平成31年3月に1件のネーミングライツ契約(NSSOLラウンジ)が成立しました。本学では、これらの取組を通して、社会との連携を強め、より多くの方々に九大の取組を知っていただき、本学の応援団・ファンになっていただきたいと思っています。



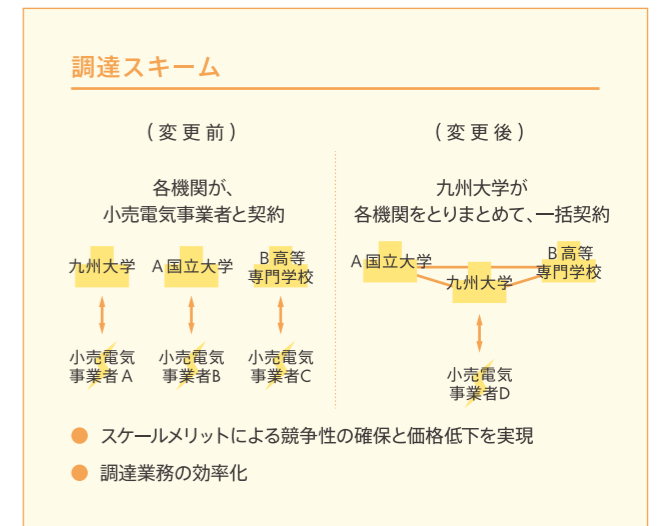
▲九州大学クラウドファンディング特設サイト  
[https://readyfor.jp/lp/kyusyu\\_univ/index.html](https://readyfor.jp/lp/kyusyu_univ/index.html)



◀▲NSSOLラウンジ(情報学習室のネーミングライツ)

## 電力共同調達による経費削減

九州地区等の国立大学法人等(10国立大学、8高等専門学校)と協力し、電力の共同調達を実施しました。電力契約は、スケールメリットを獲得しやすく、共同調達に適しています。本学では、平成28年度の電力小売自由化を受け、平成29年度に他大学に先駆け低圧電力の入札を実現しました。更に、平成30年度には、全国初の試みとして、同一電力管内における複数法人の高圧及び低圧電力契約を取りまとめ、一括入札を実現しました。本学の取組の結果、九州地区全体で、平成30年契約では年間1億7,500万円、平成31年契約では2億2,500万円の経費削減を見込んでいます。本学では、今後も、共同調達対象品目及び共同調達参加機関の更なる拡大を検討していきます。



## AI運行バスの本格始動

伊都キャンパスにて「AI運行バス」の仕組みを活用したオンデマンドバス「aimo(アイモ)」を全国で初めて本格導入しました。aimoの本格導入は、平成28年7月に本学と福岡市、株式会社NTTドコモら民間企業によって設立したスマートモビリティ推進コンソーシアムの一環として取り組んできた成果であり、本学が実証実験キャンパスを宣言して以降、本格的な社会実装事例の第1号です。

この取り組みにより交通の課題をかかえる全国各地における課題解決の一助となることが期待されています。



▲aimo出発式の様子  
左より福岡市光山副市長、NTTドコモ吉澤社長、久保総長、安浦理事・副学長

## 移転までの道のり

「時代の変化に応じて自立的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」と「それに相応しい研究・教育拠点の創造」をコンセプトとして、伊都キャンパスへの統合移転整備を推進してきました。



▲箱崎キャンパス跡地 法・文・経・教育学部本館



▲2006年 ウエスト2号館竣工



## 箱崎キャンパス跡地の未来像

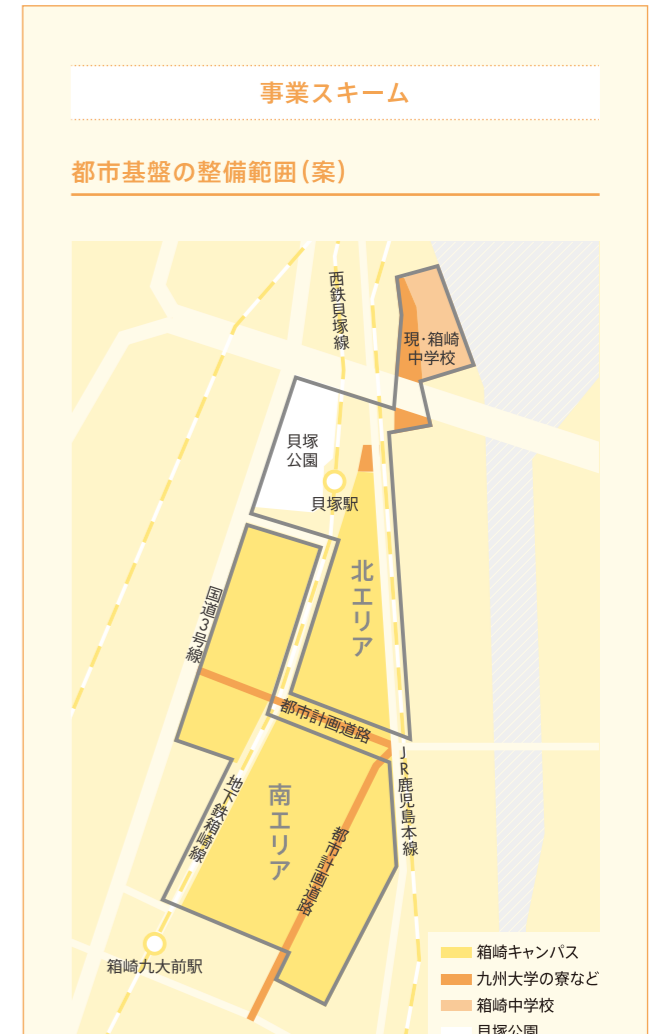
本学は、箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を推進するため、平成25年7月に福岡市とともに、学識経験者、地域住民代表、経済界等で構成される「箱崎キャンパス跡地利用協議会」を発足しました。同協議会において議論を重ね、平成30年7月にまちづくりの指針となる「箱崎キャンパス跡地ランドデザイン」を策定し、令和2年度には、跡地南エリアの土地利用事業者を公募する予定です。また、福岡市が先進的まちづくりとして推進する「FUKUOKA Smart EAST」構想の実現に向けて、その先駆けとして箱崎のまちづくりに取り組んでいくため、平成30年8月に福岡市、UR都市機構、福岡地域戦略推進協議会と本学の4者で「FUKUOKA Smart EAST推進コンソーシアム」を設立し、民間事業者を対象にスマート勉強会を開催するとともに、箱崎キャンパス跡地において先進技術の導入に向けた実証実験を実施しています。



▲旧工学部本館



▲ドローンを用いた配送実験について説明の様子



### 九州大学が関係機関と連携して取り組むまちづくり事業

#### 北エリア(約20ha)

##### 『福岡市』による『土地区画整理事業』

- 貝塚駅周辺を含む脆弱な都市基盤の解消および総合的な交通結節機能の強化(駅前広場整備、東西方向の連絡性向上など)
- 貝塚公園や箱崎中学校などの公共施設の再配置と移転跡地の活用
- 市有地や公共施設が多い中での市の主体的な関与

#### 南エリア(約30ha)

##### 『UR都市機構』による『開発行為』

- 九州大学は、早期の資金確保と適切な土地処分のため、迅速な都市基盤整備が可能な事業者として、UR都市機構を選定
- 福岡市は、UR都市機構による都市計画道路等の「直接施行制度」を活用

# 学生・受験生・保護者のみなさまへ



実り多き学生時代のために、  
ひとりひとりサポートします。

## 自立的な学ぶ力の涵養

生涯にわたり自立的に学び続けるアクティブ・ラーナーを育成する「基幹教育」を開始しています。具体的には『基幹教育セミナー』、『課題協学』に代表される文理融合クラスでの教育です。授業では、ものの見方・考え方・価値観の異なる人と多様な知を交流し活動する能力、差異を認め合う共感性、そして問題解決へと導くコミュニケーション能力が磨かれています。さらに、異なる学部仲間との自己省察を通じて主体的な学び方を身につけ、それぞれに生涯にわたって学び続ける強靱な幹が育まれています。



## 安心して学ぶための経済支援

経済的理由により授業料等の納付が困難で、学業優秀と認められる学生を対象に入学期や授業料を免除する制度があります。加えて、本学独自の経済的支援として、優れた志を持ち学業成績が優秀な学部学生を対象とした「山川賞」や「学生交流協定に基づく交換留学生の授業料不徴収」など、学生に対する経済的支援を積極的に導入しています。また、平成30年度には中本博雄様(福岡市)のご寄附により「中本博雄賞」を創設し、①海外渡航支援、②学生の海外派遣支援、③修学支援を行い、20年間にわたり、年間約65名の学生が、学業に専念し、また、海外留学等の貴重な機会を得ることが可能になりました。本学では、引き続き、学生に対する積極的な経済支援に取り組めます。(関連情報P40)

## 実り多き学生生活のための支援

本学では、学生の学びの環境を支えるべく、修学支援、キャリア支援、生活支援、正課外活動支援といった様々な支援に取り組んでいます。新入生へのガイダンス、履修相談、進路・就職相談、OB・OG訪問支援、学費免除、奨学金など幅広い支援を行っています。また、キャンパスライフ・健康支援センターでは、医師、保健師、看護師、カウンセラー、コーディネーター等が、専門的な見地から、心身の健康、人間関係、生活習慣の改善や禁煙指導等、身体的なものから心理的なものまで様々なご相談に対応しています。

なお、このセンターでは、保護者のみなさまからのご相談もお受けしております。学生が実り多き学生生活を送れるよう、引き続き、一人ひとりに寄り添う支援を行っていきます。

### 主な本学独自の経済的支援

- 授業料、入学料の免除
- 大学院生の教育補助業務に対する手当
- 山川賞、中本博雄賞
- 学生交流協定に基づく交換留学生の授業料不徴収
- 博士課程学生の研究補助事業に対する手当
- 学士課程(国際コース)の成績優秀者に対する奨学金



▲学生支援サイト <https://career.kyushu-u.ac.jp/top>

## 異文化交流を育む学生寮・英語学習サポート

伊都キャンパスをはじめ、大橋キャンパス等に学生寮を整備し、1,300人以上の学生が生活しています。とりわけ、伊都キャンパスの学生寮は、多国籍の学生が混住する国際寮で、個人の生活を尊重しつつ人間関係を構築し、多様な学生と交流できるよう配慮しています。また、正課の授業外での自主的な英語学習をサポートするために「SALC (Self-Access Learning Center)」を設置して、英会話、TOEFLやIELTSなどの試験対策などのサポートを提供したり、学内外の各種留学・研修プログラムに関する情報を常時提供したり、留学相談に応じています。スタッフ、学習サポーター(留学生の大学院生)はみなフレンドリーで、利用者の中にはここで英語の力をつけて留学の夢をかなえた人たちもおり、自分の興味に応じた英語学習を楽しんでいます。



▲交流会の様子



▲SALCの様子



## THE 世界大学ランキング国内4位

ベネッセグループと英国の教育専門誌のタイムズ・ハイヤー・エデュケーション (THE) が発表した日本版大学ランキングで、本学は昨年度5位からワンランクアップし、国内第4位となりました。日本版ランキングの指標は、教育リソース、教育充実度、教育成果及び国際性の4分野13項目で構成されています。本学が最もランクが高かった分野は教育成果(国内3位)で、企業人事及び研究者への調査から卒業生の評判を表わしており、各方面からの評価が高かったことを示しています。



## インクルージョン支援の推進

障害のある学生及び教職員が個性と能力を発揮できるよう、その不利益となる社会的障壁を除去するためさまざまな支援(合理的配慮)を行っています。具体的には、修学・就労等における情報保障やコミュニケーション上の配慮、授業教室内の優先席の確保等の合理的配慮を進めるための授業担当教員への配慮依頼、教材・支援機器の情報提供等の取り組みを行っています。また、大学では、グローバル共生社会での人材育成として、障害者支援を担うピア・サポーター学生の育成にも取り組んでいます。



▲ピア・サポーター学生による視覚障害者ガイドヘルプ体験会

## 「企業の人事担当者からみた大学イメージ調査」で第1位

本学では、インターンシップや学内での企業説明会など、年間に30件以上のイベントやセミナーを開催し、多様な学生のキャリア支援を行っています。日本人学生だけでなく、外国人留学生の国内での採用や博士課程の学生のキャリア支援についても力をいれています。

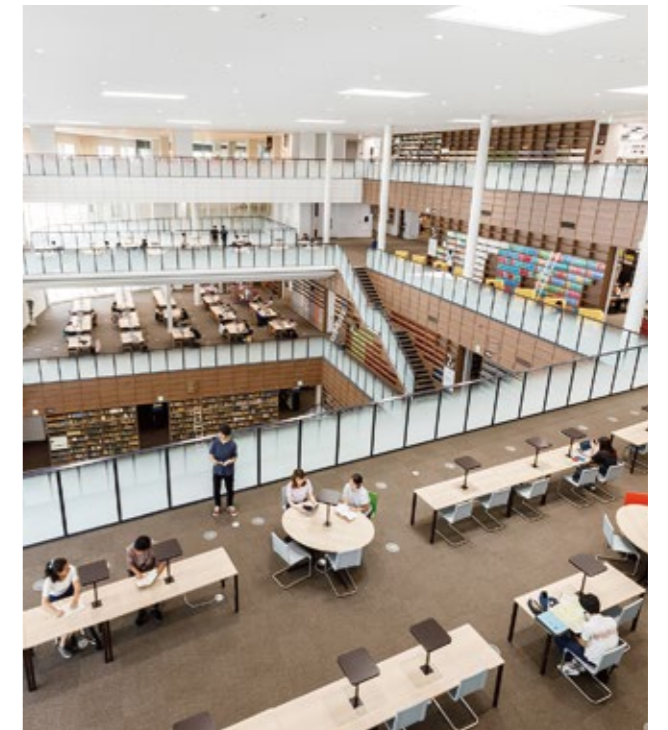
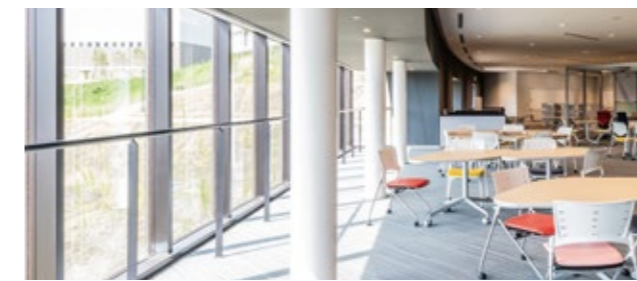
なお、日本経済新聞と就職・転職支援の日経HRが実施した大学イメージ調査で、九州大学は第1位を獲得しました!

この調査は、上場企業と有力非上場企業の人事担当者に、採用した学生から見た大学のイメージを聞き、「行動力」「対人力」「知力・学力」「独創性」の4つの項目で評価したもので、九州大学は行動力、独創性でもトップでした。基幹教育(P13)や多数の留学生との交流など(P14)が評価されたもので、これからも推進してまいります。



## 学びを生み出す中央図書館

平成30年10月にグランドオープンした中央図書館は、2万㎡の面積、約1,400席の座席数、150万冊の自動書庫を含む350万冊の収蔵能力を持つ、全国でも有数規模の大学図書館です。中央図書館では、圧倒的な蔵書により学生の学びと知識の深化を強力に支援します。また、学生の学習形態にあわせて、多彩な利用エリアを準備しています。中でも、活発に議論しながら学習できるアクティブ・ラーニング・スペース「きゅうとコモンズ」には、可動式のイスやホワイトボードなど学習活動を支えるアイテムを設置し、学生の主体的な学びを創出しています。その他、図書館では、単に学習の場を提供するにとどまらず、レポートの書き方講座をはじめとした各種講習会の開催や、図書館TA (Cuter) という名のティーチングアシスタントが学習に関する疑問や相談を受ける学習相談デスクを設置するなど、学生の学びを積極的にバックアップしています。



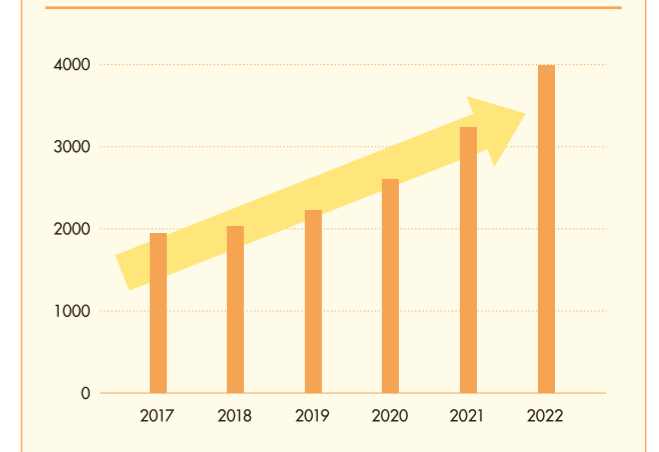
▲4階にわたる吹抜けの大空間  
◀きゅうとコモンズの1,000㎡におよぶ広いスペースには、講習会スペース、グループ学習室、その他さまざまなエリアがあります。

## 中東・北アフリカへのアプローチ(日本留学海外拠点連携推進事業)

中東・北アフリカ地域から我が国への留学者数は、約2,014人(2018年度)で、日本で学ぶ全留学生数のわずか1%に過ぎません。そこで、日本留学海外拠点連携推進事業を通じ、カイロとアンカラに拠点を設置するとともに、国内の16の大学<sup>※1</sup>と連携し、①情報の収集・発信、②リクルーティング活動支援、③帰国留学生とのネットワークを強化するための「J-MENA」<sup>※2</sup>プラットフォームを構築し、本事業を域内の21ヶ国に展開しています。これにより、中東・北アフリカにおける我が国への留学“Study in Japan”の認知度向上を図り、この地域からの留学生数を2022年に4,000人まで倍増させることを目指しています。



留学生数の目標値



※1 2019年6月30日現在

※2 J-MENA: Japan-Middle East and North Africa  
(日本と中東・北アフリカをつなぐ意)

◀アンカラオフィス開所式の様子

# 病院ご利用・医療関係者のみなさまへ



## 患者さんに満足され、 医療人も満足する医療の実現を目指します。

九州大学病院は、110年余りの歴史を持ち、国立大学病院では最大規模の1,400床を超える病床を有し、入院・外来患者数及び高難度手術や臓器移植を含む手術件数などの診療面、臨床研究並びに国際化の取組など、国内屈指の実績を有する大学病院です。近年では「臨床研究中核病院」の承認を受け、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う病院として位置付けられたほか、「臨床教授等制度」を活用して毎年優れた技術をもつ外国人医師を招へいし、世界最高水準の医療技術の導入にも努めています。また、「国際医療部」の設置、「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」の認証取得など、医療の国際化を推進しています。さらに、昨年には「がんゲノム医療中核拠点病院」の指定を受け、がんゲノム外来を開設するなどがんゲノム医療を本格的に始動し、広域医療圏拠点としての連携体制構築に向けて事業を展開しております。多くの患者さん、そして医療人が満足する医療実現のためには、これまでに築かれた基盤や伝統を守るとともに、独創的な新たな取組を展開しながら、さらに経営面の強化にも努めていく必要があります。九州大学病院は、日本有数の大学病院として、世界に通じる最高水準の医療・研究・教育を志し、病院理念の実現と「九州大学アクションプラン2015-2020(先端医療による地域と国際社会への貢献)」の実現に向けて取り組んでいきます。

### 理念と方針

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の実現を目指します。

1. 広域医療圏拠点としての連携体制の構築
2. 高度先進医療を支える医学研究の推進
3. 全人的医療を実践する医療人の養成
4. 小児から高齢者まで包括する移行期医療の充実
5. 国際化の推進

## 病院機能評価認定

九州大学病院は、第三者評価として公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価一般病院3<3rdG:Ver.2.0>の更新審査を平成30年10月に受審し、平成31年4月5日付で認定されました。

この病院機能評価は、医療機関の機能を中立的な立場で評価を行う第三者機関として設立された公益財団法人日本医療機能評価機構が審査を行い、機構の定める認定基準に達成した病院に対して認定証が発行されるものです。

審査は『書面審査』、『訪問審査』が行われ、以下の4つの領域について評価されました。

- 第1領域 患者中心の医療の推進
- 第2領域 良質な医療の実践1
- 第3領域 良質な医療の実践2
- 第4領域 理念達成に向けた組織運営

本院は、今後も「患者さんに満足され、医療人も満足する医療の実現を目指します」という理念のもとに、医療の質の向上に努力してまいります。



▲認定証  
 認定期間：平成30年1月28日～令和5年1月27日  
 交付日：平成31年4月5日  
 初回認定日：平成19年1月28日

## がんゲノム医療の本格的始動

平成30年2月16日付で、厚生労働省が公募した「がんゲノム医療中核拠点病院」のひとつに指定されました。

がんゲノム医療中核拠点病院は、国民が全国どこにいてもがんゲノム医療を受けられる体制を構築するため、個人の遺伝子情報に基づき最適な治療法を選択するがんゲノム医療の中心的役割を果たし、がんゲノム医療を牽引する高度な医療を有する医療機関として必要な機能を有することを要件に指定されるもので、本院を含む国内11か所の医療機関が指定を受けました。

そして平成30年12月1日にはがんゲノム外来を開設いたしました。がんゲノム外来では、「がん」を専門とする医師が、がん遺伝子パネル検査について説明します。さらに、患者さんの主治医による診療情報をもとに、がん遺伝子パネル検査の意義や、検査の結果によって治療の選択肢が増える可能性などについて助言を行い、患者さんががん遺伝子パネル検査を受けるかどうか決定するためのお手伝いをします。

引き続き、西日本の中核病院として、連携病院との協力のもと、がんゲノム医療の推進を図って参ります。



▲九州大学病院と連携するがんゲノム医療連携病院

## ダビンチXiを用いた福岡県初の僧帽弁形成術を実施

九州大学病院が新たに導入した手術支援ロボット(ダビンチXi)を用いて、本院初の手術を令和元年6月27日に心臓血管外科医の執刀で実施しました。現在、ダビンチなど手術支援ロボットで認可されている手術は、心臓外科、泌尿器科、腹部外科、呼吸器外科、婦人科領域に限定されており、心臓外科領域では、胸腔鏡下弁形成術(おもに僧帽弁形成術)が平成30年度診療報酬改定で保険認可されました。今回の手術を実施するにあたって、本院は低侵襲心臓手術(MICS)チームを立ち上げ、胸腔鏡下での僧帽弁を形成する手術を、患者さんの安全を最優先に実績を積み上げており、小さな手術創(傷)で確実に手術を行って、患者さんの身体の負担を軽減し、より早期に社会復帰できるように取り組んできました。その手術に準じる形で、このたびダビンチXiを用いて僧帽弁形成術を行いました。狭い手術野であっても高性能3Dモニターを用いたダビンチXiは、執刀医の指先の細かい動作に緻密に追従し、胸腔鏡下の手術よりも極めて正確で確実な手術操作を行うことができました。胸腔鏡下手術と比べて、①心臓内部の3Dカメラでの観察が非常に鮮明なこと、②ロボットアームの関節可動域が非常に広いこと、指の震えの影響が全くないことから極めて正確に手術操作ができることが大きなメリットです。



▲コンソールで操作中の執刀医

## 周術期支援センターの拡大

九州大学病院では、年間約1万件の手術が行われ、安全で効率的な周術期(手術前・手術・手術後)管理が重要です。“周術期支援センター”は、周術期医療の向上を目指して多職種が連携する周術期管理チームの一環として、平成26年9月に設置されました。患者さんが安全に周術期を過ごせるよう、各科医師と麻酔科医師・看護師・薬剤師・管理栄養士がチームを組み、支援しています。手術が計画された患者さんには、周術期支援センターを受診してもらい、麻酔科医師が入院前に診察を行います。早期に患者さんの全身状態を把握し、安全な周術期管理に繋げることができます。看護師は入院・手術のオリエンテーションを行い、不安の軽減に努めます。その他、周術期の口腔ケア(歯科医)、持参薬などの薬剤の確認(薬剤師)、栄養状態の改善(管理栄養士)など、患者さんの満足と安心を中心にさまざまな職種が緊密に連携・協力しながら、業務を行っています。対象診療科を順次拡大し、平成31年4月よりセンターを北棟2階から外来棟4階へ移転しました。現在では全ての成人麻酔科管理症例を対象としており、受診者数も増加しております。入院期間の短縮や周術期合併症の低減など、センター設置の効果が期待されます。10月頃を目途に入院時支援業務、入院前退院支援業務を追加することを予定しております。



▲周術期支援センター(外来診療棟4階)

## 損益計算書(病院セグメント)

(単位:百万円、単位未満切捨)

事項	平成29事業年度	平成30事業年度	増減
■経常費用	54,504	55,493	989
業務費	53,775	54,856	1,081
教育経費	22	20	▲2
研究経費	1,163	1,000	▲163
診療経費	31,732	32,695	962
受託研究費等	1,107	1,084	▲22
受託事業費	196	199	3
人件費	19,552	19,856	304
一般管理費	353	337	▲15
その他	375	298	▲76
■経常収益	55,282	56,905	1,622
運営費交付金収益	4,949	5,078	129
附属病院収益	46,888	48,359	1,470
受託研究収益等	1,306	1,368	61
受託事業等収益	200	203	2
寄附金収益	294	336	42
補助金等収益	590	636	45
施設費収益	123	12	▲111
資産見返負債戻入	532	409	▲122
その他	395	500	105
(経常利益)	778	1,412	633
■臨時損失	57	78	20
■臨時利益	3	0	3
(臨時損益)	▲53	▲78	24
■当期純利益	724	1,334	609
■目的積立金取崩額	0	0	0
■当期総利益	724	1,334	609

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

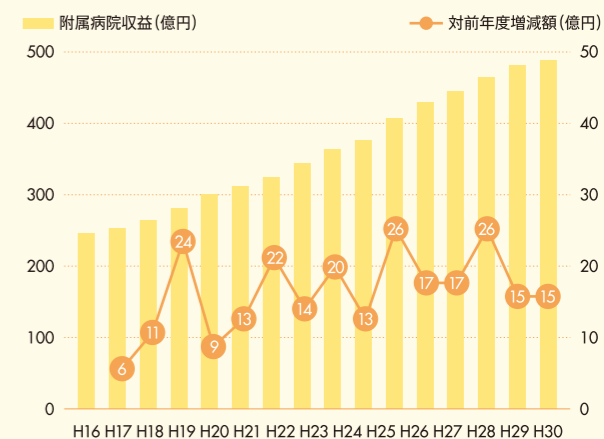
### 【平成30年度の概要】

国立大学病院に課せられた使命を果たしていくため、「附属病院収益」の増加等経営努力を行い、「当期総利益」は前年度より6.1億円増加の13.3億円となりました。

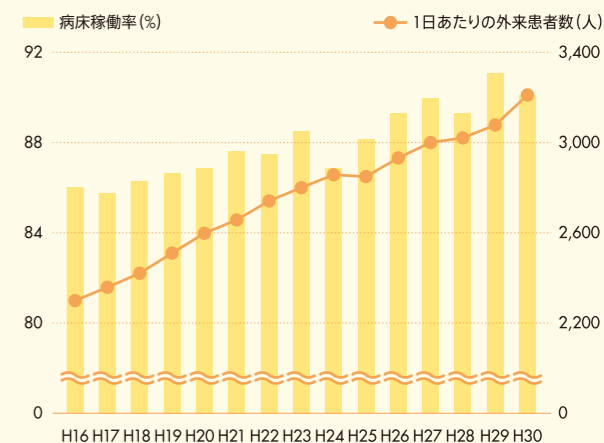
※附属病院収益増加の主な要因

- ・手術件数の増加
- ・平均在院日数の短縮等に伴う入院診療単価の増加
- ・化学療法等の増加に伴う外来診療単価の増加
- ・地域医療機関との連携強化等に伴う外来患者数の増加

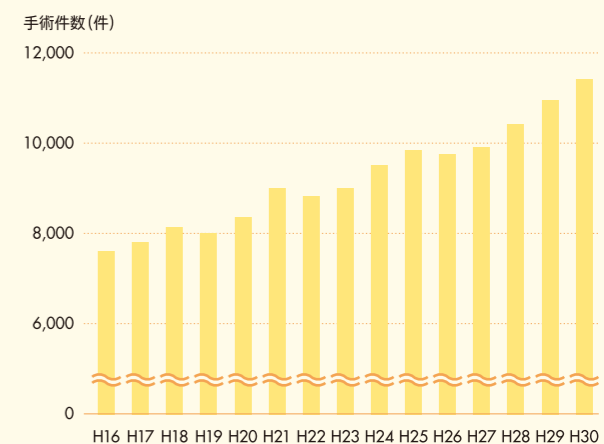
## 附属病院収益



## 病床稼働率及び1日あたりの外来患者数



## 手術件数



# 企業・研究者のみなさまへ



社会の豊かな発展のために、  
本学の研究シーズをご提供します。

## 学術研究及び産学官連携支援のワンストップ窓口

### 学術研究・産学官連携本部

ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター(URA)制度の導入に伴い、研究活動をサポートする人材を組織的に配置し、学術研究及び産学官連携活動に資する情報提供と種々の外部資金獲得等に繋がる提案や、知的財産等まつわる活動を含めた支援体制の強化を図るために、平成27年4月に学術研究・産学官連

携本部を設置しました。本学における学術研究及び産学官連携支援のワンストップサービスを提供し、社会と九州大学を結ぶ窓口として活動しておりますので、お気軽にご相談ください。

お問合せ

学術研究・産学官連携本部  
産学官連携渉外・調整グループ

詳細は学術研究・産学官連携本部ウェブサイトをご覧ください。

TEL 092-802-5127

九大産学官

検索

## 企業等のイノベーション創出を応援します。

学術研究・産学官連携本部では、企業等外部機関からの技術的な課題にお答えするための技術相談窓口を常時開設しており、平成30年度は、140件のご相談をいただきました。お申し込みいただければ、専門スタッフが詳しい内容をお聞きし、課題解決のために最適な研究者の紹介及び最適な対応(技術相談、技術指導、受託研究・共同研究、他機関の紹介等)をご提案します。食品、バイオ、機械、エネルギー、医学、経営、デザイン等、幅広く受け入れていますので、お気軽にご相談ください。

企業等から申込書の送付 申込書はホームページから取得できます。
コーディネーターによるプレヒアリング コーディネーターが詳しいお話をお聞きます。
対応方法等の決定(毎週部内で検討会) 課題解決のための最適な対応方法等を検討します。 内容によっては対応できないこともあります。
マッチング教員選定・三者面談実施 日程調整はコーディネーターがサポートします。

技術相談/技術指導/受託研究・共同研究

## 大学発ベンチャーを支援します。

### 九大発ベンチャーDeepFlow株式会社が誕生

DeepFlow株式会社は、コンピュータソフトウェアの企画・開発等の会社で、独自開発したソフトウェアによって、建築業・製造業に必要とされる試作の代わりとなるシミュレーションを実現可能にし、開発期間の短縮、性能の向上、製品の多様化などに貢献しています。深川宏樹代表取締役社長は、九州大学特任助教授在籍時に自動車エンジン部品のシミュレーターの開発を行い、大学在任中の2018年7月5日にDeepFlow株式会社を設立しました。



◀ 深川宏樹代表取締役社長

### ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター

社会における新たな価値の具体的実現のために、アントレプレナーシップと同時に、課題発見からアイデアを創出→プロトタイプング→評価に至るプロセス技法でイノベーション実現能力向上を目指した授業、企業様と連携した企業参加型授業などを通じて、起業家人材の育成に力を入れています。また、学生の独創的活動支援として、学生が自らのアイデア実現に取り組む支援を行なっています。QRECの取り組みにご興味のある企業様はウェブサイトよりお問合せください。(URL:<http://qrec.kyushu-u.ac.jp/>)



### 九大ギャップファンドプログラム

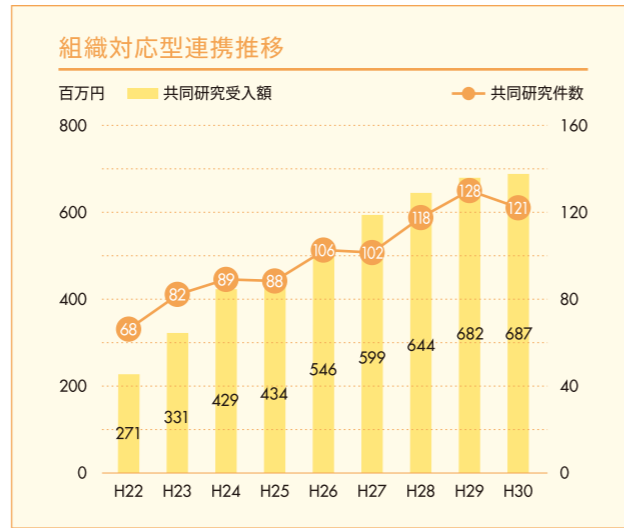
本学独自の学内プログラムとして、2017年度より実施しています。今年度で第3期を迎え、これまで毎年10名の教員が、本資金を活用して事業化検証に取り組んでいます。既に6件が会社を設立し、その他の事業シーズも外部資金獲得や事業会社・金融機関等との連携など事業化に向けた活動を積極的に行っております。



▲ 審査会の様子

## 「組織」対「組織」の産学官連携

企業の個々の研究開発ニーズを解決するだけでなく、各種の要素研究の融合を図りながら独創的なコンセプトを創出し、産学の両者が共同して国際競争力に優れた最先端の実用化技術を開発することを目的とした「組織対応型連携」を実施しています。組織対応型連携では、当該研究目的に沿った最適な研究グループを広く全学的に組織し、企業と契約を結びます。平成30年度には、新たに5社と連携契約を締結し、平成31年4月時点で75の企業、国、自治体、研究機関等と連携して研究開発を行っています。また、日本橋サテライト（東京都中央区）において、大学のシーズを紹介するイベント等を開催し、企業との連携拡大や大型共同研究の増大などを通じた研究の活性化や高度化の促進に取り組んでいます。



## 世界初・海洋におけるマイクロプラスチック浮遊量を予測

海洋プラスチック汚染の監視と軽減に期待

海を漂流・漂着するプラスチックごみは、時間が経つにつれ次第にマイクロプラスチック(MP)と呼ばれる微細片となり、誤食を介して海洋生物に取り込まれます。このプラスチックごみ問題はG7サミットやG20サミットの主要テーマの一つとされており、この問題を解決するために、応用力学研究所の磯辺篤彦教授らは、MP浮遊量をコンピュータ・シミュレーションで再現し、50年先までの太平洋全域における浮遊量を予測しました。このままでは、2030年までに海洋上層での重量濃度が現在の約2倍になることが示され、海洋生物がMPによる環境リスクに直面する可能性があることがわかりました。世界が注目するこの問題に取り組む、将来の汚染回避へとつなげたいと考えています。



▲太平洋観測での浮遊マイクロプラスチック採取の様子



▲プラスチックごみが散乱するタイプの海岸

## 九州大学先生の森

九州大学 先生の森専用サイト  
<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/professor/>

九州大学のホームページにて、九州大学の個性豊かな先生たちを紹介しています。



## 「飛ぶ車・次世代航空機」の研究開発

平成31年4月25日(木)、伊都キャンパスで、先進電気推進飛行体研究センター開所式を開催しました。同センターでは、世界で本学のみがもつ超伝導技術を基盤とした、電動飛行体の研究開発を行います。技術の革新性は、超軽量で高出力を同時に可能とする超伝導モータと発電機の組み合わせです。本年1月に、経済産業省と米ボーイング社が電動航空機開発協力で合意し、本学の超伝導研究に注目が集まっています。今後は本学の強みを集約し、地球環境保全のために、人の移動・物流を担う航空機、自動車の低エミッション化・高効率化を目的として、電気推進システムを搭載した電動航空機と飛ぶ車の研究開発を行います。



▲出典：経済産業省ウェブサイト  
<https://www.meti.go.jp/press/2018/12/20181220007/20181220007.html>  
 ▲開所式のテープカットの様子

## 日本初・九州大学がQS-APPLEのホスト校に

QS-APPLE(※)とは、QS社が開催する年次総会のひとつで、このたび、九州大学をホスト校として2019年11月26～28日に開催されることとなりました。QS-APPLEが日本で開催されるのは初めてのことで、世界大学ランキングで有名な英国QS社が主催する本会議は、2004年の初回以降、国際教育に携わる教職員に対して、高等教育をとりまく状況の変化について理解し、各機関の成功例および取組を分かち合い、交流を深めるための国際的なプラットフォームとして重要な位置を占めています。第14回QS-APPLE最終日(2018年11月21日～23日・中央大学校(韓国・ソウル))最終日、本学の荒殿誠理事・副学長が、QSアジアCEOのマンディ・モク氏と協定書を取り交わし、次回の開催地が福岡に決まりました。



▲協定書を取り交わすマンディ・モク氏(左)と荒殿理事・副学長

※イギリスのQuacquarelli Symonds(QS)社が主催するアジア、ヨーロッパ、アフリカそしてオーストラリア地域の大学やそれに準ずる教育機関の教育関係者が集う国際会議、及び大学アビールのためのエキジビション。APPLEはAsia-Pacific Professional Leaders in Education Conference and Exhibitionの略

## 新興感染症を含む昆虫媒介感染症対策の研究

アジアトップクラス的环境下での蚕学の研究

九州大学のカイコの研究は100年以上の歴史があり、維持しているカイコは約500種、毎年5月には一度に20万匹以上を飼育し、世界でも有数の規模を誇っています。『昆虫科学・新産業創生研究センター』は、地球規模の生物多様性の喪失に対して、科学的な根拠を基盤に対応し、新興感染症を含む昆虫媒介感染症対策などを研究しています。また、2018年には初めての九大発ベンチャーとして「KAICO株式会社」が誕生しました。九大独自系統のカイコと九大の研究技術を用いて、研究試薬・診断薬・ワクチン等へ商業利用する事業を展開します。



# 同窓生のみなさまへ

## 同窓生との連携協力 九州大学CEOクラブ

部局同窓会、地域同窓会等では、学生の就活支援や、若手社会人の勉強会など、九州大学ネットワークを活かした取組が多くみられるようになってきました。これらの同窓会組織のうち、約40団体を会員とする九州大学同窓会連合会では、各同窓会間や本学で情報交換を重ねながら模索しています。また、2019年2月には、企業CEOで本学同窓生の方を会員とする「九州大学CEOクラブ」初総会を開催しました。本学と同窓生相互の発展のため、今後も、新しい取組にも挑戦していきます。

担当: ceo-club@jimu.kyushu-u.ac.jp



▲東京同窓会サマーフェスタ  
九州大学から東京同窓会への  
感謝状贈呈の様子



▲九州大学CEOクラブ

## 世代を超えた交流活動 アカデミックフェスティバル

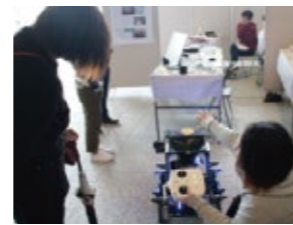
毎年度秋にアカデミックフェスティバルを実施しています。トークショー、交歓会、伊都キャンパス見学ツアー、高大連携の成果発表会などの催しに、同窓生、在学生、教職員、高校生、地域の方々に参加いただき、本学との結びつきを一層深めていけるよう努力していきます。

\*令和元年度の開催日程: 10月19日

担当: academic-fes@jimu.kyushu-u.ac.jp



▲アカデミックフェスティバルの  
ブース出店の様子



▲ブースでの研究活動紹介の様子

## 九大祭

九大祭は、10月上旬に開催される九州大学最大級の行事で、九大生による教室企画やステージ企画に加えて、高校生向けガイダンス企画など、多くの方々に楽しんでいただける充実した企画の数々となっております。

例年、来場者数は2万人を超えており、普段は静かな学びの場であるキャンパスもこの2日間は活気溢れるにぎやかな場へと姿を変えます。



▲九大祭の様子



▲出店の様子

## 九大とつながるメールマガジン 九州大学生涯メールアドレスサービス

本学では、同窓生等を対象に、一生涯使える転送専用メールアドレスの付与及び本学の研究成果やその他の取組、講座、講演等を紹介するメールマガジン「Qdai-mail通信」の配信サービスを行っています。転送専用メールアドレスの付与とメールマガジン配信を希望される方は、以下のURLから申込願います。

https://kyudai.jp/entry\_request.cgi



# 地域のみなさまへ

## こどものためのワークショップ博覧会

平成31年3月9日(土)~10日(日)の2日間、本学が進める地域社会貢献事業の一環として、伊都キャンパスにてこどものためのワークショップ博覧会「ワークショップコレクションin福岡2019」が開催されました。もの作りや体験活動を通じて、こどもたち(小学生)の創造力・表現力を刺激するワークショップの全国普及と発展を目的とした世界最大級の創作イベントです。久保総長も子どもたちに向けた挨拶をされ、センターゾーンでは子どもたちの歓声や笑顔が絶えることがありませんでした。このイベントは今年度以降も開催される予定です。



▲特別授業をされる久保総長

## 地域に開かれた伊都診療所を開設

平成31年1月31日伊都診療所を開所しました。伊都診療所は、「九州大学アクションプラン2015」の大きな柱のうち「学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり」の取組の一つとして、設置されました。伊都キャンパス周辺に医療機関が乏しい現状において、学生・教職員が身体的・精神的に健康な状態を保つための環境の整備であり、また、地域住民等にも開かれた伊都キャンパス周辺の初期的な一次医療機関として機能し、必要に応じて九州大学病院や学外医療機関の専門医に患者を紹介する等、地域住民等の健康を守る役割も担い、社会への貢献を行っていきます。



▲伊都診療所

## 九州大学 グッズの 紹介

研究成果を社会に還元する  
一つの形です。



### 九州大学製法 はかた地どりのブルスト

「はかた地どりのブルスト」は、農学部附属農場畜産研究室と農事組合法人福栄組合、志摩スモークハウスの三者の共同開発により誕生しました。原料肉に特定JAS認定地鶏「はかた地どり」を100%使用しています。  
◆200g 650円(税込)

### 九州大学特別限定醸造酒 九州大吟醸

「九州大吟醸」は、原料の一部に農学部附属農場の酒米を使用しています。優しいのど越しと果実を思わせる甘い香りがある特徴の「薫酒(青)」があります。

◆薫酒(青) 720ml 2,700円(税込) 1.8L 5,400円(税込)



お問合せ

九州大学生活協同組合

九大グッズについての詳細は九大グッズウェブサイトをご覧ください。お問合せの方は、右記番号までご連絡ください。

TEL 092-834-2072

九大グッズ 検索

# 九州大学の活動を支える財務状況

## 財務諸表

国立大学法人は、決算書(財務諸表等)を作成し、翌年度の6月30日までに文部科学大臣へ提出し、承認を得ることとされています。

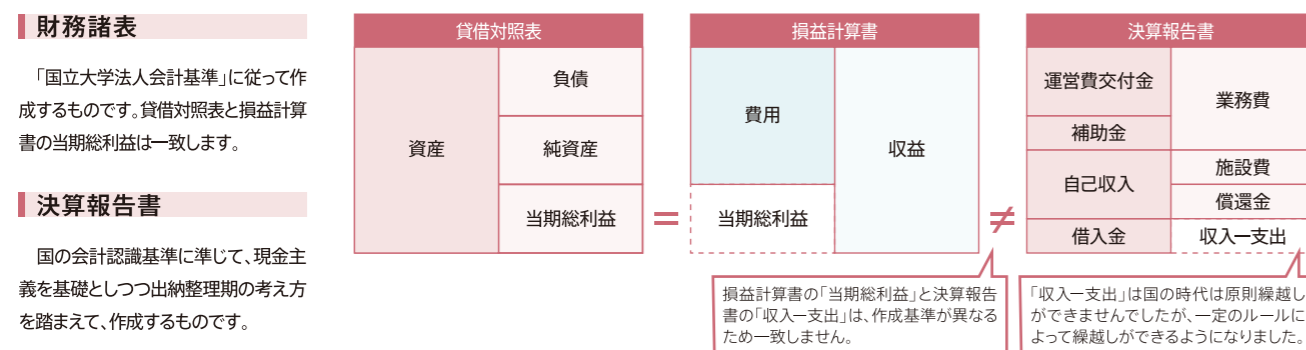
1 貸借対照表	3月31日における財政状態を明らかにするものです。
2 損益計算書	4月1日～3月31日の1年間の運営状況を明らかにするもので、費用、収益や利益の発生状況を示します。
3 キャッシュ・フロー計算書	4月1日～3月31日の1年間の資金の流れを一定の活動別に区分して表します。
4 利益の処分又は損失の処理に関する書類	貸借対照表で算定された当期末処分利益と損益計算書で算定された当期総利益の処分の内容を示します。
5 国立大学法人等業務実施コスト計算書	教育・研究・診療等の業務運営に要した費用(コスト)のうち、国民の税金で賄われている金額を示します。
6 附属明細書	上記1～5の書類の内容を補足します。
7 事業報告書 ※	法人の概要、財務情報と事業内容を関連表示したものです。
8 決算報告書 ※	年度計画における予算額と実際に執行した決算額を対比することで、予算の見積りとその後の事業の推移を明らかにするものです。

※ 1～6が財務諸表です。7及び8は財務諸表に添付して提出することとされている書類です。

各事業年度の財務諸表等は、以下のホームページにて公表しています。  
九州大学ホームページ>九州大学について>公表事項>財務諸表等 [http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial\\_statements/](http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial_statements/)

## 作成基準が異なる二通りの決算書の作成

財務諸表と決算報告書は、作成基準が異なります。



## 国立大学法人会計基準の特徴について

「国立大学法人会計基準」は複式簿記、発生主義という点では企業会計原則と同じですが、次のような国立大学法人の特性を踏まえて、企業会計原則とは異なる特有の会計処理を行っています。

### 国立大学法人の主な特性

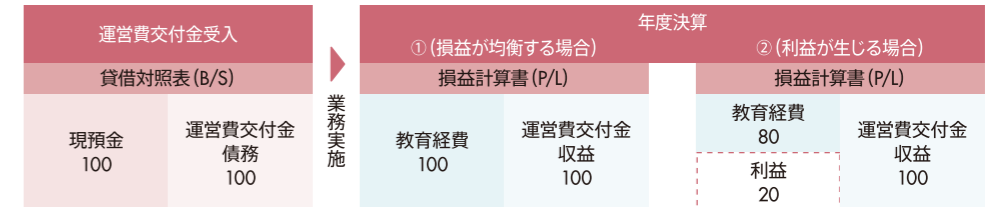
- 公共的な性格から利益獲得、独立採算を前提とせず、国から財源措置があります。
- 建物整備は国が決定し予算措置される等、大学単独の判断で意思決定が完結しない場合があります。
- 民間企業のような資本主を制度上予定せず、利益が配当されることはありません。

## 国立大学法人特有の会計処理

### 収益の認識

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などは研究教育等の業務を実施する義務があることから、受領した際に一旦債務(負債)に計上します。その後、業務実施に伴い収益に振り替える会計処理をします。

例:運営費交付金で業務を実施



年度決算①…通常どおり業務を行えば、損益が均衡します。 年度決算②…費用が抑えられれば、利益が発生し当期末処分利益となります。

○運営費交付金債務の収益化基準

期間進行基準:時の経過に伴い業務が実施されたとみなして運営費交付金債務を収益化する基準(原則)  
業務達成基準:業務の実施に伴い運営費交付金債務を収益化する基準(プロジェクト研究等)  
費用進行基準:費用発生額と同額の業務が実施されたとみなして運営費交付金債務を収益化する基準(退職給付金等)

### 損益均衡

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などで固定資産を取得した場合、受領時の債務(負債)を「資産見返負債」に振り替えます。固定資産の減価償却に伴って資産見返負債は資産見返負債戻入という収益に振替えられ、これらの処理により資産・負債、収益・費用が均衡します。

例:運営費交付金で資産を取得



### 損益に影響しない会計処理

施設費等は、施設等の更新が必要などに出資者である国が責任をもって措置するものであることから、費用として認識しないこととなっています。したがって、償却資産を取得した場合、取得価格を資本剰余金(純資産)に振替え、減価償却時には減価償却費ではなく損益外減価償却累計額(資本剰余金のマイナス科目)を計上して、資本剰余金を減少します。

例:国から措置された施設費で資産を取得



### 退職給付引当金・賞与引当金

運営費交付金によって財源措置されない職員の退職金や賞与について、支給見込み額に基づき計上します。

### 目的積立金と積立金

未処分利益のうち、経営努力により生じた利益であると文部科学大臣から承認を受けた金額は目的積立金となり、中期計画で定められた剰余金の使途の範囲内において、翌年度以降に使用することが可能になります。



国立大学法人会計基準の特徴については、以下のホームページにも解説を掲載しています。  
九州大学ホームページ>九州大学について>公表事項>国立大学法人会計基準の特徴について [http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/as\\_characteristic](http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/as_characteristic)

# 貸借対照表 B/S (Balance Sheet)

(単位:百万円、単位未満切捨)

科目	H28事業年度	H29事業年度	H30事業年度	前年比
<b>【資産の部】</b>	<b>450,278</b>	<b>472,775</b>	<b>464,492</b>	<b>▲ 8,283</b>
I 固定資産	395,118	411,389	411,020	▲ 369
1 有形固定資産	388,015	404,006	399,090	▲ 4,915
土地	185,315	185,139	185,097	▲ 41
建物、構築物	142,892	171,766	166,901	▲ 4,865
設備(機械装置、工具器具備品、医療用機器)	22,980	24,864	25,701	836
建設仮勘定	16,490	2,353	1,617	▲ 735
その他	20,336	19,883	19,772	▲ 110
2 無形固定資産	803	756	696	▲ 60
3 投資その他の資産	6,298	6,626	11,233	4,606
II 流動資産	55,159	61,385	53,471	▲ 7,913
現金及び預金	24,738	46,144	41,604	▲ 4,539
医業未収入金	8,635	8,820	9,149	329
有価証券	19,901	3,000	700	▲ 2,300
その他	1,885	3,421	2,017	▲ 1,403
<b>【負債の部】</b>	<b>177,511</b>	<b>188,241</b>	<b>186,416</b>	<b>▲ 1,825</b>
I 固定負債	128,592	141,326	139,988	▲ 1,338
固定資産見返負債	59,824	50,438	49,352	▲ 1,085
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	11,497	9,636	7,905	▲ 1,731
長期借入金	49,382	70,663	69,629	▲ 1,033
長期リース債務	835	4,117	5,324	1,206
その他	7,052	6,471	7,776	1,304
II 流動負債	48,919	46,915	46,427	▲ 487
運営費交付金債務	991	2,485	3,288	802
寄附金債務	14,886	15,282	15,778	496
一年以内償還予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	1,985	1,860	1,731	▲ 129
一年以内返済予定長期借入金	2,646	2,792	2,887	95
未払金	21,161	16,899	14,590	▲ 2,309
リース債務	908	1,675	1,576	▲ 99
その他	6,339	5,919	6,576	657
<b>【純資産の部】</b>	<b>272,766</b>	<b>284,533</b>	<b>278,076</b>	<b>▲ 6,457</b>
I 資本金	146,151	146,151	146,151	-
II 資本剰余金	114,016	124,447	120,488	▲ 3,959
III 利益剰余金	12,598	13,935	11,436	▲ 2,498
前中期目標期間繰越積立金	9,881	8,803	6,587	▲ 2,215
教育研究診療等充実積立金(目的積立金)	-	2,087	1,538	▲ 549
積立金	-	626	1,510	883
当期未処分利益	2,716	2,417	1,800	▲ 617
(うち当期総利益)	(2,716)	(2,417)	(1,800)	(▲ 617)

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

## 科目の説明

建設仮勘定	有価証券	大学改革支援・学位授与機構債務負担金	長期借入金
建物や構築物は、着工から竣工まで一定の時間がかかるため、建設費用の一部を先に支払うことがあります。この前払い相当額を建物等が竣工するまでの間、一時的に計上しておく科目です。	国立大学法人は、業務運営に支障のない範囲において、余裕金を運用することができます。運用できる有価証券は、国の方針により国債や地方債等に限定されています。	旧:国立学校特別会計から国立大学財務・経営センター(現:大学改革支援・学位授与機構)が承継した財政融資資金借入金で、国立大学法人等が債務を負担することとされた相当額の残高です。借り入れたお金は、病院の診療施設、最先端医療機器の整備などに使用しています。	国立大学が法人化された平成16年4月以降に、大学改革支援・学位授与機構や民間金融機関から借り入れたお金の残高です。大学改革支援・学位授与機構から借り入れたお金は病院の診療施設、最先端医療機器の整備に、民間金融機関から借り入れたお金は統合移転事業に使用しています。

## 平成30事業年度決算の概要

「設備」「投資その他の資産」は増加していますが、「建物・構築物」「現金及び預金」等の減少要因の方が大きいため、資産の部は4,644億円(対前年度▲82億円)となりました。

## 前事業年度と比較した主な増減要因

### 土地

土地は寄附を受け入れたことにより増加した一方で、演習林土地の一部を減損処理したこと等の減少要因のほうが大きいため、全体では減少しています。

### 投資その他の資産

長期資金運用に伴う新たな投資有価証券の取得等により、全体で46.1億円増加しています。

### 現金及び預金、有価証券

定期預金の期末残高の減少や期首に保有していた譲渡性預金が満期を迎えたこと等により減少しています。

### 長期借入金

伊都キャンパスの統合移転事業が完了し、統合移転事業における施設整備を行うためのお金の借り入れを行わなかったこと等により減少しています。

### 長期リース債務

病院情報システム等のリース開始により全体で12.1億円増加しています。

### 建物、構築物

センター4号館の竣工、センター5号館及び総合コホートセンター(馬出)の改修等で増加した一方で、箱崎地区建物の減損処理並びに減価償却等の減少要因の方が大きいため、全体では減少しています。

#### センター4号館



センターゾーンに位置するセンター4号館は、大学事務部門を配置する建物となっており、平成30年6月に竣工し、同年7月には開所式及び内覧会を挙行了しました。本学の事務局機能は、移転整備の進捗に合わせて、箱崎キャンパスから伊都キャンパスへ移転してきましたが、事務局については伊都キャンパス内の空きスペースへの分散配置となっており、事務局機能の集約が望まれていました。このたび、センター4号館の完成により、キャンパス内に点在していた事務局が本建物に配置されたことで、さらなる事務局機能の連携強化が期待でき、事務局拠点施設として本学の発展を支えることのできる環境が形成されています。

#### 総合コホートセンター



疫学の中でいろいろな要因に暴露したヒト集団を前向きに観察して病気の発症と暴露要因との因果関係を検証する研究手法を「コホート研究」といい、九州大学大学院医学研究院は、1960年代より半世紀にわたり世界に先駆けて大規模コホート研究を展開してきました。そこで、精度の高い新世代コホート研究を展開するため「総合コホートセンター」を開設し、また、これらの研究を推進する研究者の育成を行なうための体系的な教育システムの開発を行なっています。このたび、当センターの改修を行い、よりよい環境の中で研究を行うことにより、学内外の関係部局との組織的連携を加速させ、国際コホート連携を主とする共同研究を展開して、全世界レベルでの連携に発展させていく予定です。



# 損益計算書 P/L (Profit & Loss Statement)

(単位:百万円、単位未満切捨)

科目	H28事業年度	H29事業年度	H30事業年度	前年比
<b>I 経常費用</b>	123,375	124,046	129,600	5,554
業務費	118,673	119,439	124,741	5,302
教育経費	5,358	5,260	6,359	1,098
研究経費	12,880	11,708	15,166	3,458
診療経費	30,257	31,732	32,695	962
教育研究支援経費	3,482	3,722	3,887	164
受託研究費等	12,143	11,283	11,436	152
受託事業費	533	670	671	1
人件費	54,018	55,059	54,525	▲ 534
一般管理費	4,078	4,076	4,425	349
財務費用	583	481	389	▲ 92
雑損	39	49	43	▲ 5
<b>II 臨時損失</b>	669	842	479	▲ 362
固定資産除却損	393	606	466	▲ 139
減損損失	-	12	1	▲ 11
災害損失	37	29	11	▲ 18
その他	238	193	-	▲ 193
<b>費用合計</b>	124,045	124,888	130,079	5,191
<b>I 経常収益</b>	126,423	126,793	128,980	2,187
運営費交付金収益	41,657	39,461	40,565	1,104
授業料収益	7,936	9,084	9,054	▲ 29
入学金収益	1,496	1,493	1,493	▲ 0
検定料収益	268	266	266	▲ 0
附属病院収益	44,215	46,888	48,359	1,470
受託研究収益等	12,570	11,837	12,278	441
受託事業収益等	535	690	691	1
寄附金収益	2,828	2,994	2,903	▲ 90
補助金等収益	5,017	3,983	3,740	▲ 243
施設費収益	237	318	411	92
資産見返負債戻入	6,431	6,281	5,560	▲ 721
財務収益	22	29	38	9
雑益	3,202	3,458	3,610	151
その他	3	3	4	1
<b>II 臨時利益</b>	149	83	49	▲ 34
固定資産売却益	15	0	0	0
資産見返負債戻入(臨時)	132	83	48	▲ 34
その他	0	0	0	0
<b>収益合計</b>	126,572	126,876	129,029	2,153
<b>当期純利益(収益合計-費用合計)</b>	2,527	1,988	▲ 1,049	▲ 3,038
目的積立金取崩額	189	429	2,850	2,420
<b>当期総利益(当期純利益+目的積立金取崩額)</b>	2,716	2,417	1,800	▲ 617

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

## 平成30事業年度決算の概要

経常費用は、「診療経費」、「研究経費」等が増加し、1,296億円(対前年度+55億円)となりました。経常収益は、病院の経営努力により「附属病院収益」が増加するなど、1,289億円(対前年度+21億円)となりました。また、目的積立金を財源として伊都キャンパスへの移転事業の実施や箱崎キャンパスの閉鎖施設を撤去したこと等に伴い、「目的積立金取崩額」が増加した結果、当期総利益は18億円(対前年度▲6億円)となりました。

## 前事業年度と比較した主な増減要因

### 教育経費、研究経費

キャンパス移転に伴う教育及び研究施設の新規整備等により増加しています。

### 運営費交付金収益

移転事業に伴う施設整備や移転費用は費用進行基準を適用しており、費用の増加に伴い見合いの収益が増加しています。

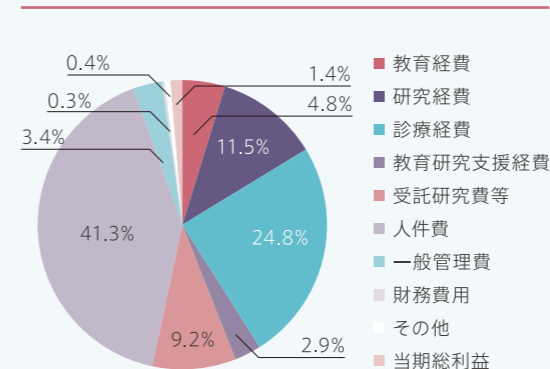
### 附属病院収益

手術件数の増加及び平均在院日数の短縮等に伴う入院診療単価の増加、化学療法等に用いる高額医薬品の使用増加に伴う外来診療単価の増加、地域医療機関との連携強化等に伴う外来患者数の増加等、病院の経営努力による様々な成果が生じ増加しています。

## 費用、収益の内訳

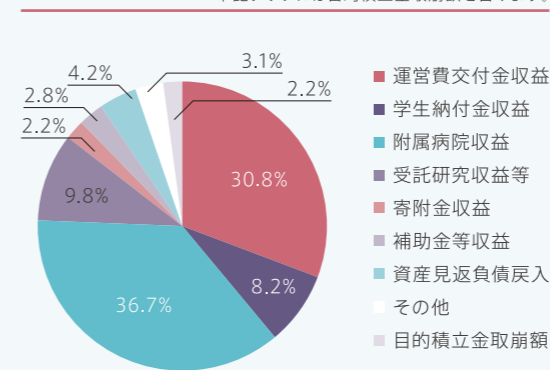
### 費用

※下記グラフには当期総利益を含みます。



### 収益

※下記グラフには目的積立金取崩額を含みます。



### 教育経費トピックス

#### 共創学部設置一年

平成30年4月に共創学部を設置して1年がたちました。共創学部は、複雑化・多様化するグローバル社会において、多様な人々との協働から異なる観点や学問的な知見の融合を図り、共に構想し、連携して新たなものを創造する「共創」をコンセプトとして、新たなイノベーションの創出を担う人材を育成するために設置した学部です。現在、1年生と2年生合わせて210名の学生(令和元年5月1日現在)が学んでいます。平成31年4月には、共創学部の授業を行う施設としてセンター5号館もオープンし、これから、共創学部生が中心となって他学部生と一緒に活発な学修を行い、全学的な文理のコラボレーションがさらに活性化していくことが期待されます。



### 研究経費トピックス

#### 『第4回世界社会科学フォーラム(WSSF2018)』をアジア太平洋地域で初・九州大学主催で開催

『世界社会科学フォーラム』はユネスコによって設立された国際社会科学評議会(ISSC)が3年に一度開催する世界会議で、人類が直面する課題の解決を社会科学の立場から提案・行動することを目的として、社会学、法学、経済学、地理学、文化人類学等の分野の力の結集のもと学際的、超学際的な討論を展開し、未来社会を構想するものです。昨今では国際社会で最も権威と影響力のある会議の一つとされており、第4回大会をアジア太平洋地域で初めて本学主催にて平成30年9月25日～9月28日に開催いたしました。



▲鏡開きの様子

# キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円、単位未満切捨)

科目	H28事業年度	H29事業年度	H30事業年度	前年比
<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	14,372	12,165	11,242	▲ 923
運営費交付金収入	42,798	41,567	43,059	1,491
附属病院収入	43,891	46,707	48,011	1,304
学生納付金収入	10,326	10,287	10,038	▲ 248
補助金及び受託研究等収入	18,190	16,653	17,984	1,331
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 46,036	▲ 47,030	▲ 52,006	▲ 4,976
人件費支出	▲ 57,623	▲ 57,634	▲ 57,845	▲ 211
その他	2,825	1,614	2,000	386
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	▲ 14,663	▲ 29,574	▲ 944	28,629
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	3,983	15,814	▲ 5,938	▲ 21,752
<b>IV 資金に係る換算差額</b>	-	-	0	0
<b>V 資金増減額 (I+II+III+IV)</b>	3,691	▲ 1,593	4,360	5,953
<b>VI 資金期首残高</b>	14,146	17,838	16,244	▲ 1,593
<b>VII 資金期末残高 (V+VI)</b>	17,838	16,244	20,604	4,360

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

## 平成30事業年度決算の概要

運営費交付金収入、附属病院収入、補助金及び受託研究等収入が増加した一方で、伊都キャンパスの移転経費の支出増加などにより業務活動によるキャッシュ・フローは112億円(対前年度▲9億円)となりました。また、定期預金等の払戻による収入が増加したことにより、資金期末残高は206億円(対前年度+43億円)となりました。

### 区分の説明

#### I 業務活動によるキャッシュ・フロー

教育・研究・診療等の大学の通常業務の実施に伴う資金の収支状況を示します。教育や研究、診療などに必要な物品・サービスの購入や、学生のみなさまからの授業料、患者のみなさまからの附属病院収入などを計上しています。

#### II 投資活動によるキャッシュ・フロー

将来に向けた運営基盤確立のための投資の実施に伴う資金の収支状況を示します。定期預金や有価証券等による資金運用や固定資産の取得・売却などを計上しています。

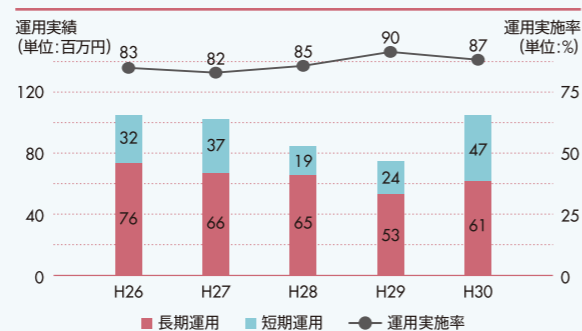
#### III 財務活動によるキャッシュ・フロー

資金調達や返済などに伴う資金の収支状況を示します。病院の整備や統合移転事業のために大学改革支援・学位授与機構や民間金融機関から借り入れたお金やその返済費用、リース契約により導入した設備の支払額などを計上しています。

### 財務活動トピックス

国立大学の法人化以降、毎年運営費交付金が削減されている中で、多様な収入源の確保が課題となっています。本学においては、当面支払いを予定していない手元の余裕金を財源として、従来からの国債等の債券の購入や定期預金等に加え、平成30年度より国の法律改正を受け、元本保証のある金融商品から、収益性が高く、リスクを伴う金融商品(外国債券等)の運用を開始することで、平成30年度は約1億円の運用収入を得ています。この活動によるお金の動きは、「投資活動によるキャッシュ・フロー」として表れます。金利の下落が進む状況下において、本学では綿密な資金繰計画をたてることで滞留資金の圧縮を図り、今後も機動的かつ効率的な運用を行うことにより、更なる運用益の確保を目指します。

### 運用実績額及び運用実施率の推移

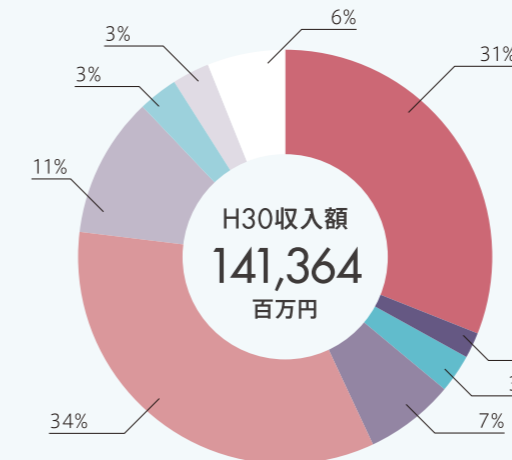
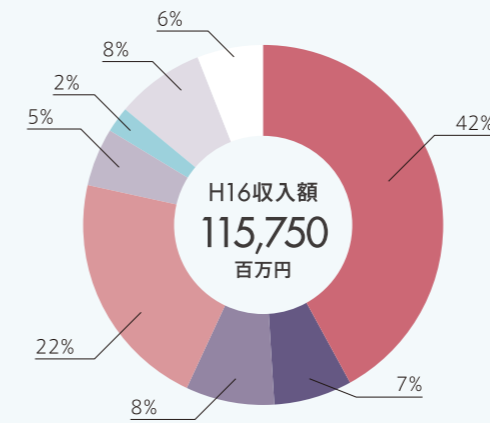


# 財務構造(決算報告書)

### トピックス

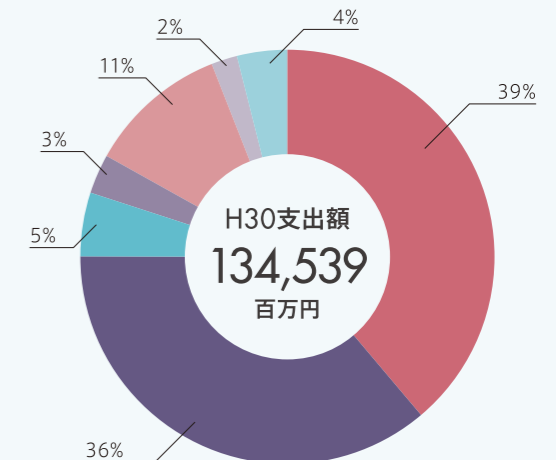
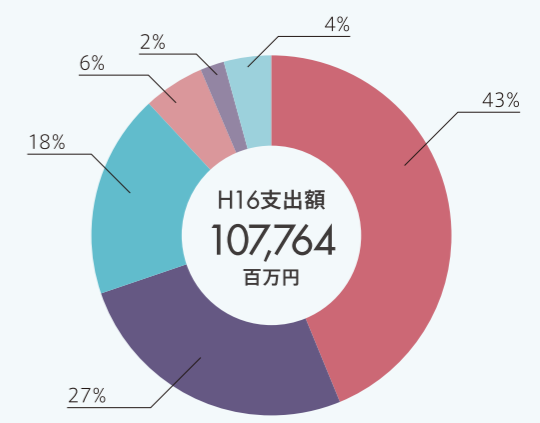
平成16年度の法人化当初から10年以上経過し、本学の財務構造は大きく様変わりしています。収入面では、国から交付を受ける運営費交付金が減少する中、附属病院収入や産学連携等研究収入が大きく増加しており、中でも附属病院収入は、病院の経営努力により増収を続け、今では運営費交付金を上回っています。一方、支出面では、事業規模の増加に伴い全体的に増加していますが、とりわけ診療経費の増加が顕著となっています。

### 収入



	H16	H30	単位:百万円 対H16比
運営費交付金	48,516	44,460	▲4,056
施設整備費補助金	8,148	3,454	▲4,694
補助金等収入	-	3,930	3,930
学生納付金収入	9,456	10,038	582
附属病院収入	24,849	48,011	23,162
産学連携等研究収入	6,058	15,826	9,768
寄附金収入	2,637	3,429	792
長期借入金収入	9,073	3,576	▲5,497
その他	7,011	8,636	1,625

### 支出



	H16	H30	単位:百万円 対H16比
教育研究経費	45,909	51,960	6,051
診療経費	29,307	48,449	19,142
施設整備費	19,622	7,103	▲12,519
補助金等	-	4,037	4,037
産学連携等研究経費	6,022	15,204	9,182
寄附金事業費	2,214	2,877	663
長期借入金償還金	4,689	4,905	216

\*上記のグラフは、決算報告書の決算額です。

\*H16の決算報告書では「一般管理費」という項目がありますが、便宜上このグラフでは「教育研究経費」「診療経費」に按分して計上しております。

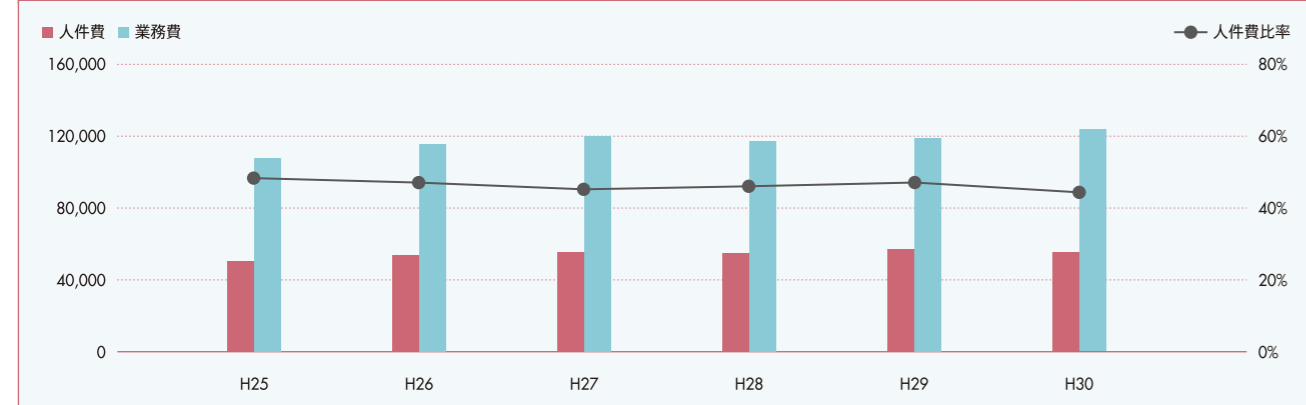
\*上記の産学連携等研究収入などの外部資金は、他機関への分担金等を除外した額を計上しているため、P37に記載の受入額とは一致しません。

\*単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

# 財務指標

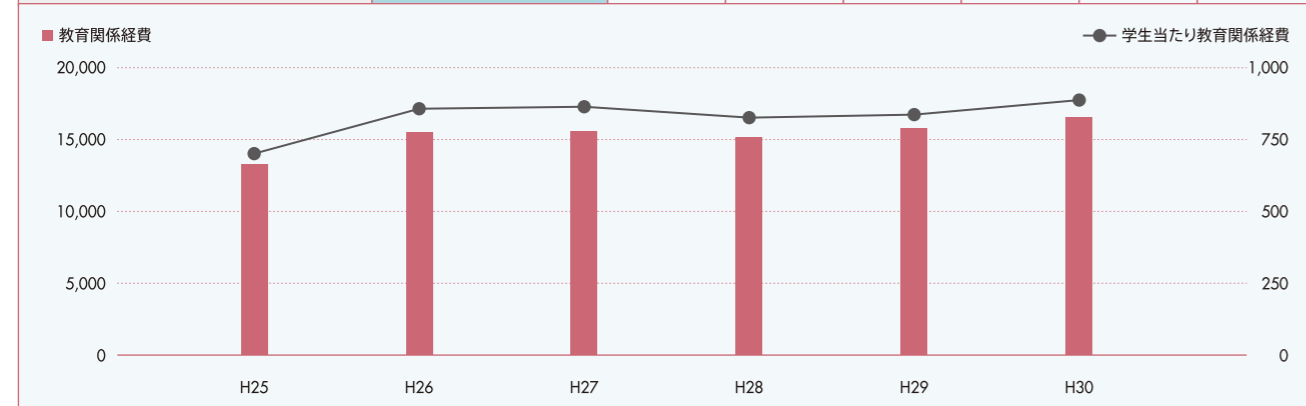
財務指標とは、国立大学法人の財政状態と運営状況を総合的に把握し分析する上で基礎データとなるものです。国立大学法人の教育研究活動自体を評価するものではありませんが、活動状況を多面的に把握するための参考情報の一つとして活用されることが期待されています。今回は、平成25事業年度から平成30事業年度の6事業年度の推移をまとめました。

1. 人件費比率		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
指標の概要	項目(単位)						
業務費に占める人件費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が高いとされています。	人件費比率(%) : a ÷ b	47.1%	46.4%	44.9%	45.5%	46.1%	43.7%
	人件費(百万円) : a	49,348	53,632	54,565	54,018	55,059	54,525
	業務費(百万円) : b	104,875	115,557	121,410	118,673	119,439	124,741



**Point** 人件費比率は、病院収入を財源とした医師等の雇用増や給与改定(人事院勧告)等の増加要因はあるものの、定年退職者数の減少や業務の改善・効率化の推進を行った結果、やや減少し43.7%となりました(同規模7大学(\*1)の中で2番目に低い値)。本学では、さらなる人件費の抑制に向け、業務の改善や効率化を積極的に推進するとともに、時間外勤務の削減などに引き続き取り組んでいきます。

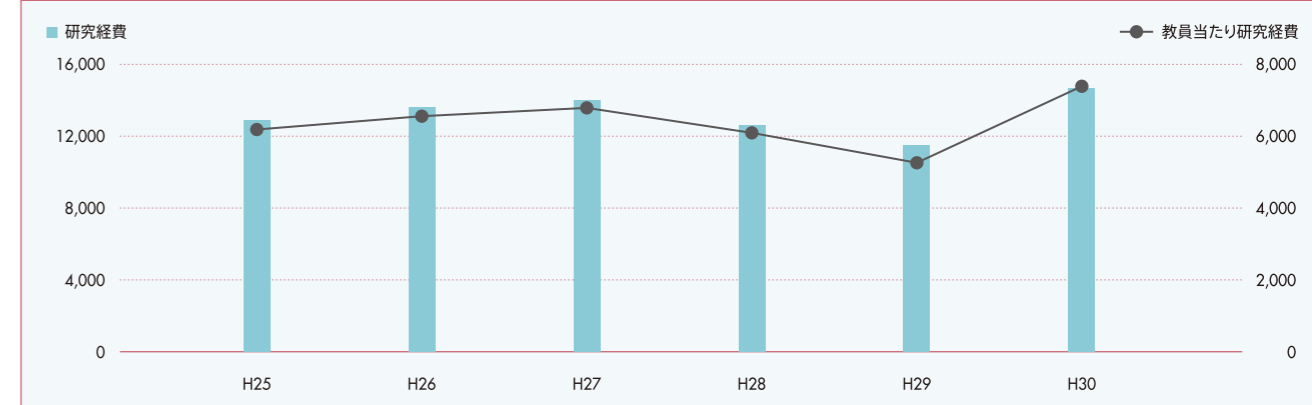
2. 学生当たり教育関係経費		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
指標の概要	項目(単位)						
学生一人当たりの教育関係経費を示す指標であり、この数値が高いほど学生一人当たりにかかれた教育関係経費が大きいことを示します。	学生当たり教育関係経費(千円) : a ÷ b	715	832	837	815	843	881
	教育関係経費(百万円) : a	13,437	15,670	15,699	15,211	15,771	16,450
	学生数(*2)(人) : b	18,799	18,846	18,747	18,659	18,707	18,668



**Point** 学生あたり教育関係経費は、授業料等免除枠及びキャンパス移転に伴う教育施設の新規整備等により増加し881千円となりました(同規模7大学(\*1)の中で3番目に高い値)。本学では、平成30年度に新設された「共創学部」での新たな入試制度である「新入試QUBE」の実施や大学入学選抜の実施体制の強化に関する取り組みなど、さらなる教育環境の整備・充実に努めています。  
※教育関係経費は、損益計算上の教育経費(学生等に対し行われる教育に要した経費)の他、教員人件費等を加算した額です。

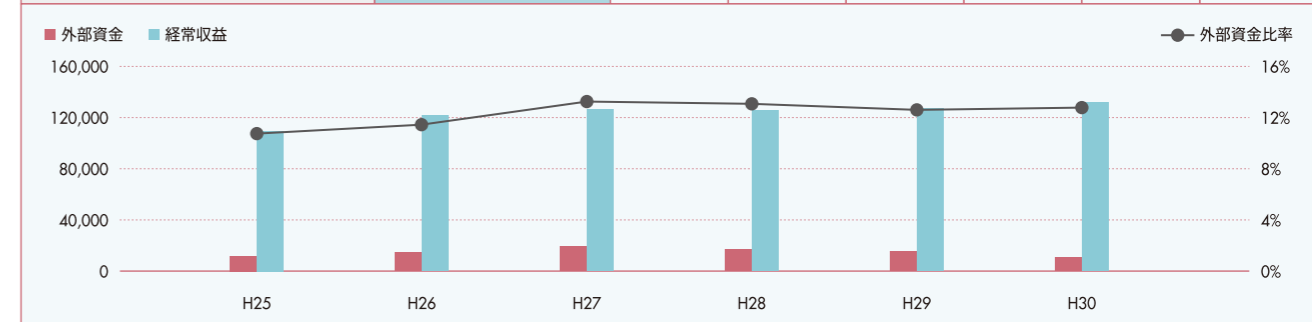
\*1 同規模7大学(北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学)  
\*2 5月1日を基準日とした学生(学部生、大学院生)数  
\*3 5月1日を基準日とした教員(常勤)数  
\*4 単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

3. 教員当たり研究経費		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
指標の概要	項目(単位)						
教員一人当たりの研究経費を示す指標であり、この数値が高いほど教員一人当たりが使用した研究経費が大きいことを示します。	教員当たり研究経費(千円) : a ÷ b	6,692	6,921	7,175	6,317	5,675	7,306
	研究経費(百万円) : a	13,833	14,576	14,988	12,880	11,708	15,166
	教員数(*3)(人) : b	2,067	2,106	2,089	2,039	2,063	2,076



**Point** 教員当たり研究経費は、キャンパス移転に伴う研究施設の新規整備等により増加に転じ7,306千円となりました(同規模7大学(\*1)の中で3番目に高い値)。本学では、研究教育機構等の整備、外国人研究者に対する科研費支援サービスの充実など、さらなる研究体制の強化に努めており、引き続き研究経費の確保に取り組んでいきます。  
※研究経費は、研究施設の減価償却費等も含まれていることから、その全額を研究者が使えるわけではありません。

4. 外部資金比率		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
指標の概要	項目(単位)						
経常収益に占める外部資金の割合を示す指標であり、比率が高いほど外部資金の受入が拡大していることになります。	外部資金比率(%) : a ÷ b	10.6%	10.9%	12.9%	12.6%	12.2%	12.3%
	外部資金(百万円) : a	11,739	13,280	16,486	15,935	15,521	15,874
	受託研究収益等	8,159	9,937	13,051	12,570	11,837	12,278
	受託事業収益等	496	467	499	535	690	691
	寄附金収益	3,083	2,874	2,935	2,828	2,994	2,903
	経常収益(百万円) : b	110,559	121,475	128,177	126,423	126,793	128,980



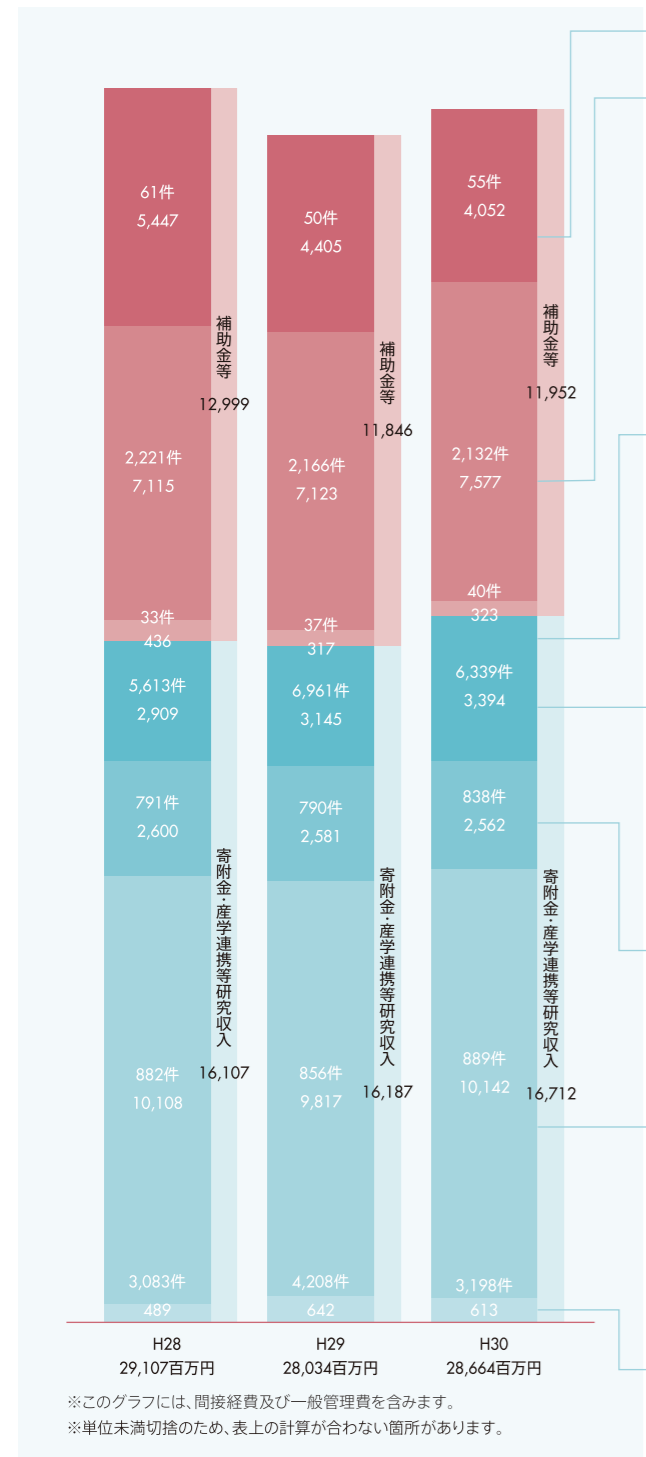
**Point** 外部資金比率は、前年度と概ね同様の12.3%となりました(同規模7大学(\*1)の中で6番目に高い値)。国の厳しい財政状況により運営費交付金が年々減少する中、外部資金の獲得は喫緊の課題であり、本学では、各種外部資金の獲得状況や他大学との比較により本学の研究力の現状を分析した「研究戦略データ集」を発行し、全教員に配布するなど、外部資金獲得向上に努めています。

# 外部資金受入

本学では、国から交付される運営費交付金のほかに、教育・研究活動を進展させるために不可欠である外部資金(科学研究費助成事業・産学連携等研究収入・寄附金等)の獲得に努めています。

## トピックス1

外部資金の受入額は、概ね同額で推移していますが、寄附金の受入件数は増加傾向にあります。本学では、より多くの方々に寄附していただけるよう、本学の施設利用や全国のホテル・レストランでの割引サービスなど、本学へ寄附していただいた方への特典の充実を図っています。詳細は、P39を参照してください。



### 補助金

文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム、研究拠点形成費等補助金、医療研究開発推進事業費補助金などがあります。

- 世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI): 1,080,163千円(30年度受入分)
- 研究拠点形成費等補助金 :5件 764,598千円

### 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金/学術研究助成基金助成金)

「科学研究費助成事業(科学研究費補助金/学術研究助成基金助成金)」文部科学省が、あらゆる分野で独創的・先駆的な研究を進展させることを目的として交付する補助金です。

- 科学研究費補助金(基盤研究(S)): 19件 598,021千円
- 科学研究費補助金(基盤研究(A)): 105件 1,246,021千円
- 科学研究費補助金/学術研究助成基金助成金(基盤研究(B)): 321件 1,585,281千円

### 文部科学省以外の科学研究費補助金等

国又は独立行政法人等が、科学技術の振興等を目的として交付する補助金です。

- 厚生労働行政推進調査事業費補助金 : 2件 212,713千円
- 厚生労働省科学研究費補助金 : 4件 57,048千円

### 寄附金

企業や個人などから大学に対し、学術研究や教育の充実などのために寄附して頂いた資金です。

- 応用病態修復学講座(寄附講座): 75,000千円
- 周産期・小児医療学講座(寄附講座): 60,000千円
- 九州大学基金事業 : 682,827千円

### 共同研究

企業等と共同の研究を実施するために受け入れる資金です。

- 双方向型共同研究: 168,096千円

### 受託研究

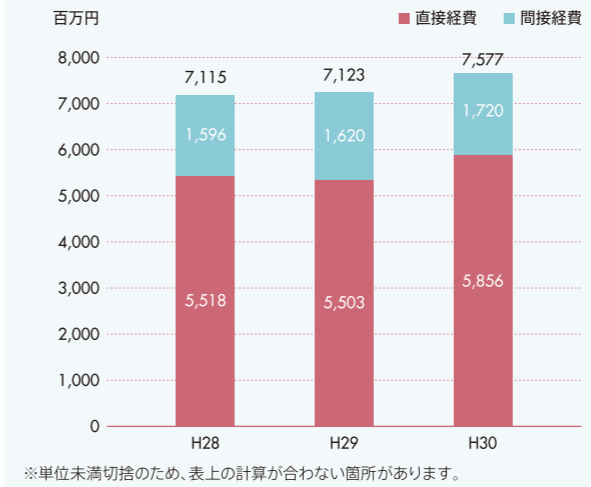
国又は独立行政法人等の公募及び民間企業より研究費として受け入れる委託費です。

- 超高压水素インフラ本格普及技術研究開発事業: 4件 626,788千円
- 日本医療研究開発機構委託費: 203件 3,311,204千円

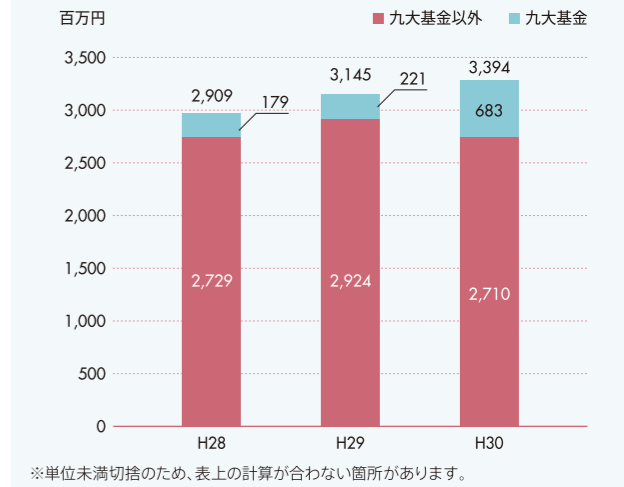
### その他

臨床受託研究科(試験)や受託研究員、分析料等で受け入れた資金です。

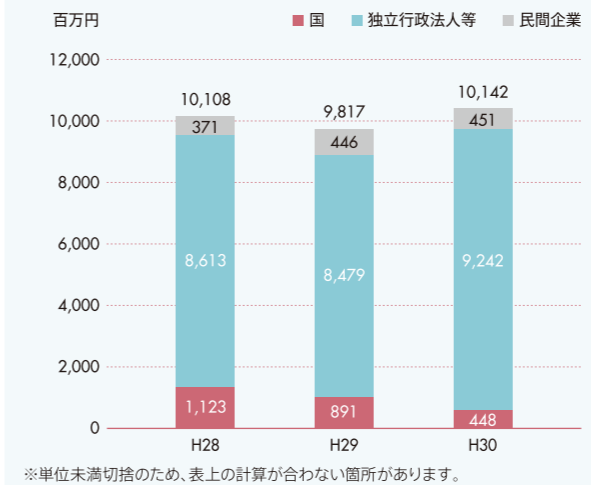
## 科学研究費助成事業受入額の推移



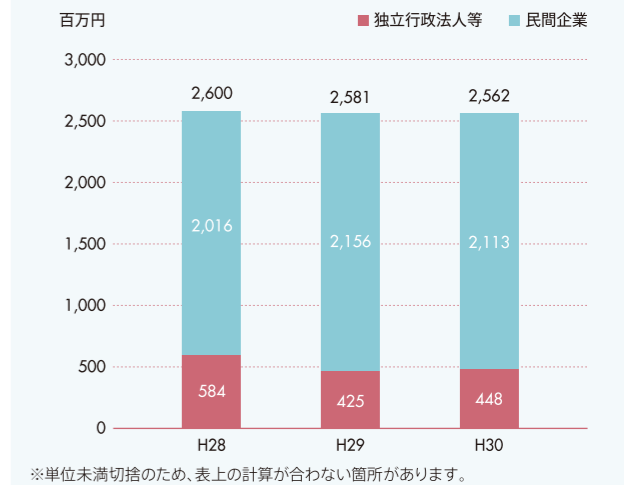
## 寄附金受入額の推移



## 受託研究受入額の推移



## 共同研究受入額の推移



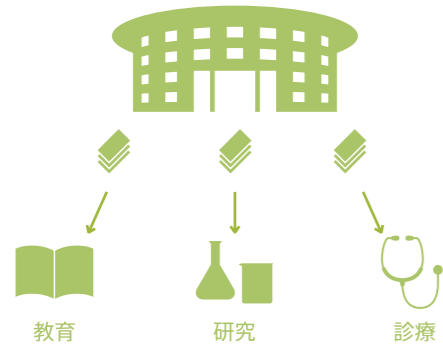
## トピックス2

本学では外部資金の獲得向上のため、若手研究者のための学内説明会や、学外から講師を招へいて個別相談会などを開催しています。また、「科研費申請・獲得ハンドブック」を日本語版に加え、英語版も作成し、全教員へ配布しています。このほか、本学における各種外部資金獲得状況や他大学との比較により本学の研究力の現状を分析した「研究戦略データ集」を全教員に配布し、学内において外部資金の獲得意欲の向上に努めています。



# 九州大学基金の取組

## 九州大学基金

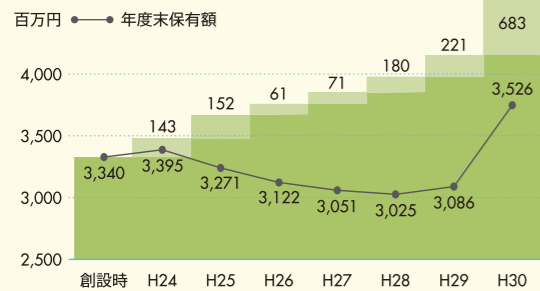


九州大学基金は平成23年に、百周年記念事業の一つとして創設されました。グローバル化する世界の学術リーダーとして「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界中の人々から支持される質の高い高等教育を一層推進し、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、九州大学の教育研究、診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的としています。

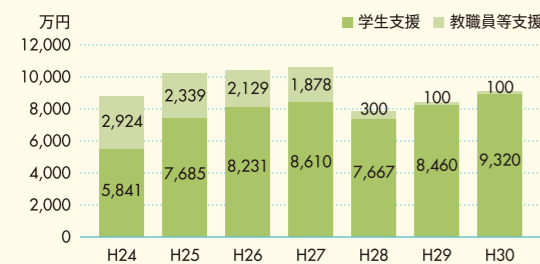
### 九州大学基金

- 創設時 33億4,077万6,957円
- 平成30年度末残高 35億2,611万9,532円
- 寄附累計(平成30年度末) 48億5,076万3,204円

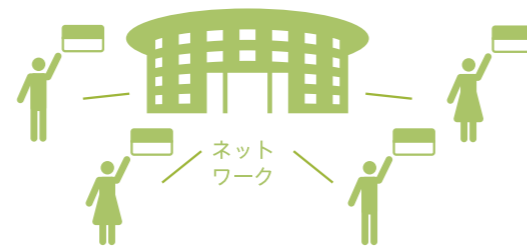
### 九大基金寄附額累計と年度末保有額



### 支援助成事業 各年度決定額



## 九大会員のご案内



九州大学では、年額2千円以上の継続寄附者、もしくは一括1万円以上の寄附者を対象とした、『九大会員』制度を実施しています。社会のみならずとよりよいネットワークを築き、社会とともに発展する大学をめざしています。

### 〈入会(九州大学基金への寄附)の方法〉

九大会員は卒業生や教職員、学生の保護者のみなさまをはじめ、本学を応援していただける方であればどなたでもご入会いただけます。1回のみのご寄附のほか、ご希望の金額・サイクルを設定することで継続的にご支援いただくことも可能です。

### 〈会員証の発行〉

九大会員のみなさまには、ご寄附申し込み後、九大会員証を発行します。平成25年度より発行を開始し、現在約6,900人の九大会員に九州大学基金を支援していただいています。また、平成30年5月より、高額寄附者を顕彰するために終身会員制度を導入し、基準額に達した寄附者へは終身会員証(有効期限なし)を随時発行していきます。



### 〈九大会員の特典〉

九大会員のみなさまには、学内外の施設利用やホテル・レストランの割引、生涯メールアドレスサービスなどのさまざまな特典をご用意しております。特典は随時更新し、みなさまに喜んでいただける特典の充実に努めています。最新情報は九州大学基金ウェブサイトに掲載しています。ぜひともご入会いただき、九州大学を応援してください。

#### 学内・学外施設利用

- 九州大学の附属図書館や各オフィス(博多駅・東京・大阪)のご利用
- 九州大学九重研修所(山の家)の利用
- 提携ホテル・レストラン割引など

#### 生涯メールアドレスサービス

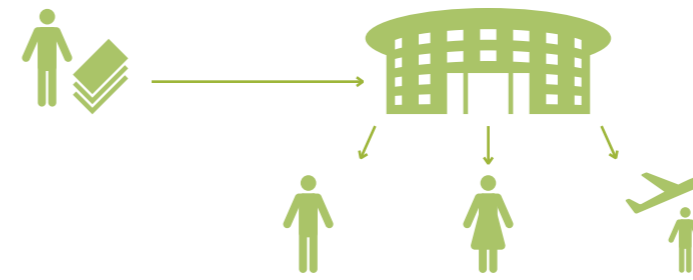


### 〈税法上の優遇措置〉

- ・所得税の寄附金控除を受けることができます。
- ・修学支援事業基金は税額控除の対象です。(税額控除:小口寄附の減税額が大きくなる制度)
- ・自治体の条例で本学への寄附が控除対象として指定されている場合、住民税の控除を受けることができます。
- ・法人からの寄附は法人税法上の全額損金算入を認められている指定寄附金となります。

## 寄附の種類

### 一般寄附



特に用途を特定しない一般寄附は、学生や教職員の支援助成事業に活用しています。とりわけ学生は、潤沢な資金を持ち合わせていないことが多いことから、みなさまからいただいた寄附金が頼みの綱となっています。支援を受けた学生からの声を、一部ではございますが紹介します。

### 山川賞

山川健次郎初代総長の名を冠した賞であり、九州大学教育憲章が指向する人間性、社会性、国際性、専門性に対して優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、年間100万円を最短修業年限まで支給します。平成30年度は、27名の学生に延べ2,700万円の奨学金を支給しました。

学生の声  
世界に目を向けて活動したい気持ちが一層強まりました。

今年度も、多くの場所へ自分の足で出向き、様々な人々と関わって活動をしてきました。私はこれらの活動を通じ、日本にいて満足するのではなく、もっと世界へ出て、世界で今なにが起こっているのかを自分の目で確かめて、世界で起きている危機を感じて、自身の活動の指針としていくことが必要だと考えるようになりました。特に、今年度海外で行ってきた活動では、将来、世界中の人々を相手にし、より広い視野を持って、今後の研究においても世界が抱える課題に取り組みたいという気持ちがより一層強まりました。



▲貞松咲月さん:農学部3年(写真左手前)

### 海外留学渡航支援

学生が海外の大学等で学ぶことにより、語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・行動力を磨き、異文化に対する理解と国際感覚の醸成を図り、グローバルに活躍できる人材として社会に貢献できるようになることを目的とした事業です。平成30年度は、総額1,000万円の予算を準備し、75名の学生が米国、英国、アジア等の世界トップクラスの大学へ渡航しました。

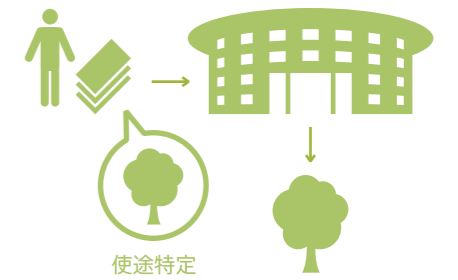
学生の声  
海外留学が自分自身を見つめなおす機会となりました。

今回のマレーシア短期留学は私にとって初めての海外留学でした。留学に際して、現地で自分の英語が通じるか、食べ物が自分に合うのか、気候に慣れることができるのかなどさまざまな不安がありましたが、その中でも経済面に関して一番大きな不安を感じていました。九大基金の海外留学支援制度は、そんな私の不安を取り除き、留学へのハードルを下げてくれました。そのおかげで日本にいただけでは経験できない文化や社会について学ぶことができ、また海外に身を置くことで自分自身を見つめなおすこともできました。



▲笹木泉さん:薬学部修士課程2年(写真左)

### 使途特定寄附



寄附者から用途を特定された寄附金については、使途特定寄附として受け入れています。

### 附属図書館中央図書館整備事業

中央図書館は、九州大学附属図書館全体を統括する中核的存在であり、2018年10月に箱崎から伊都へ移転が完了し全面開館しました。学習研究環境の一層の充実をはかるべく、未来に向けた夢と希望を発信する事業として整備事業を実施しています。2018年度寄附額:約400万円。



### 伊都キャンパス植樹プロジェクト

100年先を見据えた伊都キャンパスの研究教育環境に潤いと活気をもたらす、さらに快適なキャンパスとするための植樹への寄附を募るものです。2018年度、岐阜県および「盛和塾桜の会」岐阜支部から、貴重種桜苗木90本を寄贈いただきました。2018年度寄附総額:約86万円。



このほか、学部周年事業等の使途特定プロジェクト等が多数進行中です。詳細は、下記ウェブサイトをご参照ください。

### お問合せ

### 総務部同窓生・基金課基金係

詳細は九州大学基金ウェブサイトをご覧ください。お問合せの方は、下記番号までご連絡ください。

TEL 092-802-2150

九大基金 検索



# キャンパス紹介

特色のあるキャンパスが多様な活動を支えています。



## 伊都キャンパス

伊都キャンパスは、2005年に移転を開始し、10年を超える歳月をかけ、2018年に完成しました。現在、学生教職員数約19,000名の本学最大のキャンパスです。水素エネルギーや燃料電池等の研究開発等の近未来の社会モデル提供や、自然環境との共生などを図る、世界でも類をみない「総合研究の拠点」となるキャンパスです。

〒819-0395 福岡市西区元岡744

## 病院キャンパス

病院キャンパスは、医学系、九大病院等を擁し、将来の医療を担う医療人の育成と、高度先進医療の開発・提供を行う教育・研究・診療拠点です。

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1



## 筑紫キャンパス

筑紫キャンパスは、先端研究を担う様々な研究施設を擁し、物質、環境とエネルギーの共生型社会の実現を目指す教育・研究拠点です。

〒816-8580 春日市春日公園6-1



## 別府キャンパス

〒874-0838  
大分県別府市大字鶴見字鶴見原4546



## 大橋キャンパス

大橋キャンパスは、2003年に九州芸術工科大学との統合により誕生し、芸術と科学技術を統合したデザインの教育・研究拠点です。

〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1



## 理事メッセージ

「九州大学財務レポート2019」を最後までお読みいただきありがとうございます。

本学の財務情報を中心に、代表的な教育、研究、診療、そして産学官民連携の活動状況が少しでも多くみなさまに伝えることができたなら大変嬉しく思います。

九州大学は長年の念願でありました統合移転が昨年9月によろやく完成し、本学は、この伊都キャンパスを拠点として、新たな時代を歩み始めます。このたびの伊都キャンパスの完成まで、多大なご支援を賜りましたすべての皆様、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、本学では幅広い分野での研究が積極的に行われ、世界トップレベルの研究成果を創出している分野が数多くあります。しかしながら、これらの成果は単なる応用研究や社会実装に特化した取り組みから生まれたわけではなく、地道な基礎研究の蓄積がベースにあります。競争的環境の必要性を否定するつもりは一切ありませんが、基礎研究のないところに応用研究や実用化は生まれてこないことも真実であり、国力としての研究力を伸ばし続けるためには、基礎研究や幅広い分野の研究に腰を据えてしっかり取り組むことが不可欠であり、それは国立大学の使命であると考えます。

加えて、研究成果やそこから得られた知識を社会に還元することも、ますます重要となっており、本学では、大気中のPM2.5濃度予測結果の

一般公開や、海洋におけるマイクロプラスチック浮遊量を予測した汚染回避への貢献、その他にも九州北部豪雨災害からの復興支援等、時代の求めに合った形で、地域・社会の抱える課題解決への貢献を続けています。

日々変化する時代の要請に適切に応えながら、教育・研究・社会貢献の3つの使命を果たしていくことで、地域・社会、さらには世界から必要と認められる存在であることが、本学の在るべき形と考えています。

現在、国立大学の経営状況は厳しさを増しており、運営費交付金の削減に限らず、施設維持管理経費の増、光熱水料、電子ジャーナル等の影響もあり、厳しさは増すものの、運営費交付金だけに頼らない財政基盤の確立は不可欠との考えのもと、教育研究に係る外部資金の獲得、産学官連携の推進、九大基金の構築、資産の運用、クラウドファンディングやネーミングライツの導入など多様な財源の確保に取り組むとともに、徹底した管理的経費の削減などを行い、経営力の強化を実施しています。

引き続き、より多くみなさまに本学の現状をわかりやすくお伝えしていきますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年10月  
九州大学理事・副学長(財務担当)

井上 和秀



広告内容に関するお問い合わせは、直接広告主までお願いします。



おかげさまで創立15周年  
15th ANNIVERSARY


©GROOVISIONS

## ココロがある。コタエがある。

誠実なココロで人と向き合い、ベストなコタエをご提案する。  
それが、創立以来ずっと変わらない西日本シティ銀行の仕事です。  
お客様の人生のパートナーとして、企業の皆さまの事業のサポーターとして。  
「総合力No.1の地域金融グループ」を目指して、私たちは挑戦し続けます。


 西日本FH |  西日本シティ銀行


 @ncbankofficial  
 @ncbank\_official


 **FFG** ふくおかフィナンシャルグループ

ブランドキャラクター  
「ユーモ」

## あなたのいちばんに。

 **福岡銀行**



 **SMBC**

SMBCグループ

確実にやるのはどこでもできる。  
確実に速くやるからこそ「価値」になる。

**三井住友銀行**



九州大学

発行 九州大学財務部 住所 福岡市西区元岡744  
TEL 092-802-2335 E-mail zassomu@jimu.kyushu-u.ac.jp  
URL <http://www.kyushu-u.ac.jp>

